

小婦方遺跡

— 第3次発掘調査報告書 —

2022

姫路市教育委員会

序

姫路市には現在、約 1,200 箇所以上の遺跡が知られています。本市では、これらの遺跡をはじめとする埋蔵文化財を貴重な歴史遺産として後世に伝えていくため、遺跡の発掘調査、出土品等の整理・調査研究及び展示等を行っています。

市の中央部を流れる市川東岸には国指定史跡である壇場山古墳、山之越古墳、播磨国分寺跡等があり、古代播磨国に関わる歴史遺産が数多く残されています。このたび実施した花田町加納原田に所在する小婦方遺跡の発掘調査では、弥生時代から鎌倉時代にかけての多数の遺構や遺物が見つかりました。弥生時代の区画溝、古墳時代の韓式系土器、平安時代の集落跡など地域の歴史を考える上で注目すべき調査成果が得られています。

ここに調査成果を報告し、地域の歴史解明の進展に資する所存であります。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、多大なご協力を賜りました関係者各位に心から御礼申し上げます。

令和 4 年（2022 年）3 月

姫路市教育委員会

教育長 西田 耕太郎

例 言・凡 例

1. 本書は姫路市花田町加納原田字小婦方 883 番、884 番 1・2、885 番、896 番 3、887 番 1、897 番の一部、字北條 873 番 3 で実施した小婦方遺跡第 3 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は店舗建設工事に先立って、令和 2 年 6 月 25 日から同年 10 月 3 日の期間に実施し、出土品整理作業及び報告書の作成は令和 3 年度に実施した。
3. 発掘調査はミツヤ設計株式会社の委託を受けて姫路市が実施し、現地調査および出土品整理作業、発掘調査報告書の作成は姫路市教育委員会 生涯学習部 埋蔵文化財センターが担当した。
4. 発掘調査および出土品整理作業、発掘調査報告書の作成・刊行に係る経費はミツヤ設計株式会社が負担した。
5. 遺構名の表記は、掘立柱建物跡 (SB)、溝 (SD)、柱穴 (SP)、土坑 (SK)、不明 (SX) とし、検出順に 1 番から通し番号を付している。
6. 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位は全て座標北である。標高は東京湾平均海水準 (T.P) を使用した。
7. 土層注記に用いた色調は『新版 標準土色帳』(1999 年度版) に準拠している。
8. 本書で用いる土器類の分類名・編年および年代観は次の文献によっている。
弥生土器：長友朋子・田中元浩 2007 「西播磨地域の土器編年」『弥生土器集成と編年―播磨編一』, 大手前大学史学研究所
韓式土器：韓式系土器研究会 1987 『韓式系土器研究 I』
在地土器：姫路市教育委員会 2018 『姫路市埋蔵文化財センター報告第 56 集 村東遺跡』
須 恵 器：兵庫県教育委員会 1995 『兵庫県文化財調査報告第 139 冊 相生市緑ヶ丘窯址群 II』
9. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。
10. 発掘調査・出土品整理および報告書作成においては、加納原田自治会の皆様より御協力を賜った。深く感謝の意を表します。

目 次

第 I 章	調査に至る経緯と経過	1
第 1 節	調査に至る経緯と体制	1
第 2 節	調査の経過	1
第 II 章	遺跡の立地と歴史的環境	2
第 1 節	遺跡の立地と歴史的環境	2
第 2 節	既往の調査	2
第 III 章	調査の結果	4
第 1 節	調査区の基本層序	4
第 2 節	遺構	4
第 3 節	遺物	20
第 IV 章	総括	23
	写真図版	

第 I 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯と体制

姫路市花田町加納原田字小婦方883番、884番1・2、885番、896番3、887番1、897番の一部、字北條873番3において店舗建設工事が計画された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である小婦方遺跡（兵庫県遺跡番号：020936）に一部該当している。

事業者より令和元年（2019年）6月18日付けで文化財保護法第93条に基づく届出があった。届出の内容に基づき令和元年8月2日に事業地内の埋蔵文化財の有無を確認するために試掘・確認調査（遺跡調査番号：20190208）を実施した。調査の結果、遺構・遺物が確認されたため、工事により影響を受ける範囲を対象として、令和元年8月16日付けで記録保存の指示・勧告を行った。指示・勧告内容に基づき令和2年（2020年）6月1日付けで姫路市とミツヤ設計株式会社とで委託契約を締結し、本発掘調査を実施した（遺跡調査番号：20200115）。

現地調査開始から整理作業終了までの体制は、以下のとおりである。

姫路市教育委員会

教 育 長 西田耕太郎（令和3年4月1日～） 文化財課

松田克彦（～令和3年3月31日）

教育次長 峯野仁志（令和3年4月1日～）

岡本 裕（～令和3年3月31日）

生涯学習部

部 長 福永安洋

（令和3年7月1日より文化財課長兼務）

課 長 村田 泉（令和3年4月1日～6月30日）

大谷輝彦（～令和3年3月31日）

技術主任 中川 猛（令和3年4月1日～）

関 梓

埋蔵文化財センター

館 長 大谷輝彦（令和3年4月1日～）

松本 智（～令和3年3月31日）

課長補佐 岡崎政俊

森 恒裕

多田暢久（令和3年4月1日～）

技術主任 中川 猛（～令和3年3月31日）

技 師 補 河本愛輝（令和3年4月1日～）

なお、発掘調査の実施にあたっては、有限会社松浦興業（現 matsura株式会社） 市田英介の支援を得た。

第 2 節 調査の経過

調査対象面積は699㎡である。令和2年（2020年）6月25日より調査を開始した。耕土・造成土等を重機により除去し、調査区壁面の精査、遺構の検出および検出した遺構の発掘を人力で実施した。調査の進捗に伴い適宜、記録のための写真撮影、実測図の作成を行った。

調査は敷地南側から順次実施し、9月5日に南側と北側の全景写真を撮影した。引き続き、東側の調査を行い、9月24日に全景写真を撮影した。その後、既存用水路にかかる部分を調査し、10月3日に現地での調査を完了した。遺物はコンテナ（L590mm×W386mm×H106mm）14箱分が出土した。令和3年度に整理作業を行い、本報告書の刊行をもって全ての事業を終了した。

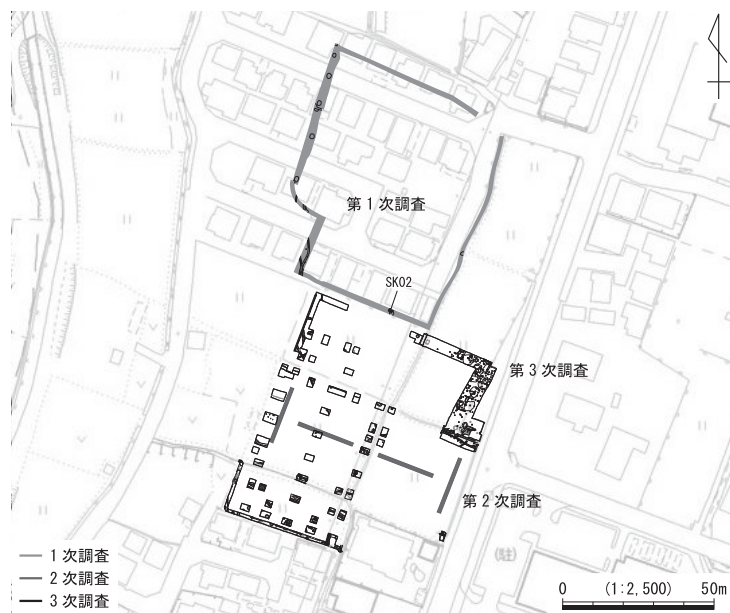


図2 今回の調査区と既往の調査位置

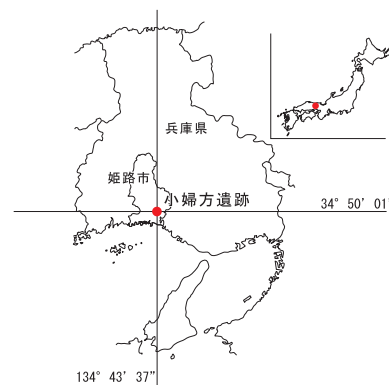


図1 遺跡位置図

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地と歴史的環境

小婦方遺跡は、兵庫県姫路市花田町加納原田字小婦方に所在する。遺跡は姫路市域を南北に貫く市川の左岸にある河岸段丘上、標高約18mに立地する。調査地の南東には、兵庫県下第2位の規模を誇る壇場山古墳や、山之越古墳、櫛之堂古墳、林堂東塚古墳が存在する。また、国分寺台地遺跡からは初期須恵器や韓式系土器が出土している。奈良時代に入ると播磨国分寺や播磨国分尼寺が建立され、室町時代には御着城が築城されている。

遺跡北側に位置する庄山山塊南麓には石積山1号・2号墳、補へら南麓古墳、トンノク谷1・2号墳、宝塚古墳、トオトヅカ古墳等の古墳が点在する。そして、こうした古墳群の存在を背景とするかのように、小川廃寺、上原田廃寺、豊国廃寺といった複数の古代寺院が建立された。また、近年の調査で、宮ノ浦遺跡では、飾磨郡衙の出先機関の可能性のある7世紀から10世紀にかけての掘立柱建物が検出されるとともに、暗文土師器や上原田式軒丸瓦などが出土している。その宮ノ浦遺跡に東側に近接する上原田遺跡では、井戸や和同開珎を収めた地鎮遺構が検出され、附近一帯に官衙に関連した遺構が存在していると考えられる。

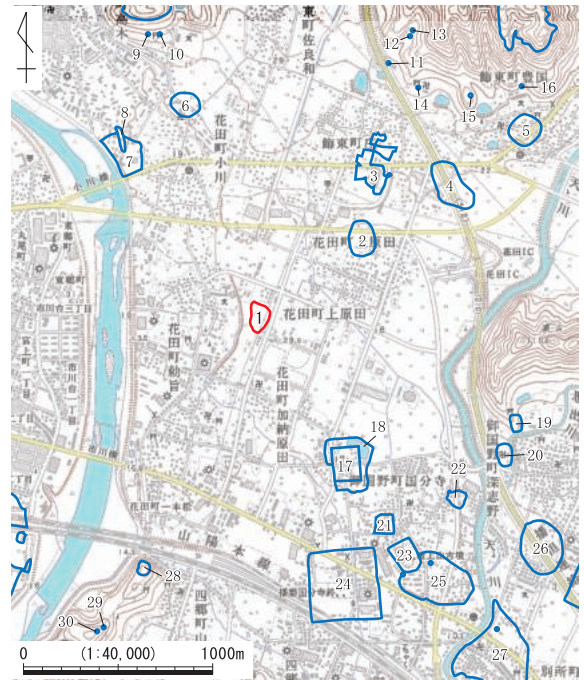
以上のように、調査地周辺は、姫路市域はもとより播磨地域の歴史を語るうえで重要な遺跡が集中しているといえる。

第2節 既往の調査

小婦方遺跡においては、これまで2回の調査を行っている。今回の調査地の北東において、平成20年（2008年）に実施した第1次調査では、土坑と溝を検出した（図2）。このうち、調査区南部で検出したSK02から韓式系土器・初期須恵器等が出土した（参考文献1）。工事中の立会調査のため報告書は刊行しなかったが、今回の調査においても韓式系土器が出土しており、調査地が隣接することから一連の遺構群として理解できる。そこで、SK02の出土遺物について報告する（図5）。

1～4は高杯である。このうち、1と2は同一個体である。3は脚部との接合部分で剥落している。5～8は小型の甕である。5は丸底を呈し、支脚の当たりが3箇所みえる。7は平底を有することが最大の特徴である。外面調整はハケメによるが、器形は韓式系土器の平底鉢に系譜を求められるもので、「土師器化」した結果と考えられる（参考文献2）。9は把手で、外面側から挿入されており、器壁に縄蓆文タタキが残る。10・11と同一個体の可能性がある。10・11は甌で、いずれも外面に縦方向の縄蓆文タタキを施す。10は口縁部直下と残存部下端付近に強いヨコナデを施す。11の底部の蒸気孔は楕円形の孔を中心に、周囲に7～8個の円形孔が配置されていたとみられる。12は長胴甕で、胴部外面には縄蓆文タタキがみえる。13は布留式の甕である。

なお、11・13については、平成23年（2011年）に畑田遺跡（姫路市飯田）や市之郷遺跡（姫路市市之郷）の出土土器36点とともに蛍光X線分析法と実体顕微鏡観察による胎土分析を実施している（参考文献3）。分析は、韓式系土器と伴出した在地の土師器を対象とした。分析の結果、両者の間には胎土中に含有する鉱物の差はなく、ほとんどの土器が出土した遺跡およびその周辺地域で製作された可能性が高いという結果が得られている。



1. 小婦方遺跡
2. 上原田廃寺
3. 宮ノ浦遺跡
4. 上原田遺跡
5. 豊国廃寺
6. 小川廃寺
7. 長谷遺跡
8. 高木遺跡
9. 石積山1号墳
10. 石積山2号墳
11. オヘラ南麓古墳
12. トンノク谷1号墳
13. トンノク谷2号墳
14. 宝塚古墳
15. トオトヅカ古墳
16. 小学校裏山古墳
17. 播磨国分尼寺跡
18. 播磨国分尼寺周辺遺跡
19. 妙見神社遺跡
20. 真福寺西方遺跡
21. 山之越古墳
22. 国分寺橋跡
23. 壇場山古墳
24. 播磨国分寺跡
25. 国分寺台地遺跡
26. 前東代遺跡
27. 御着城跡
28. 八重鉾山構跡
29. 坂元山1号墳
30. 坂元山2号墳

図3 調査地周辺の遺跡



図4 1次調査SK02遺物出土状況(北から)

1次 SK02 土器群

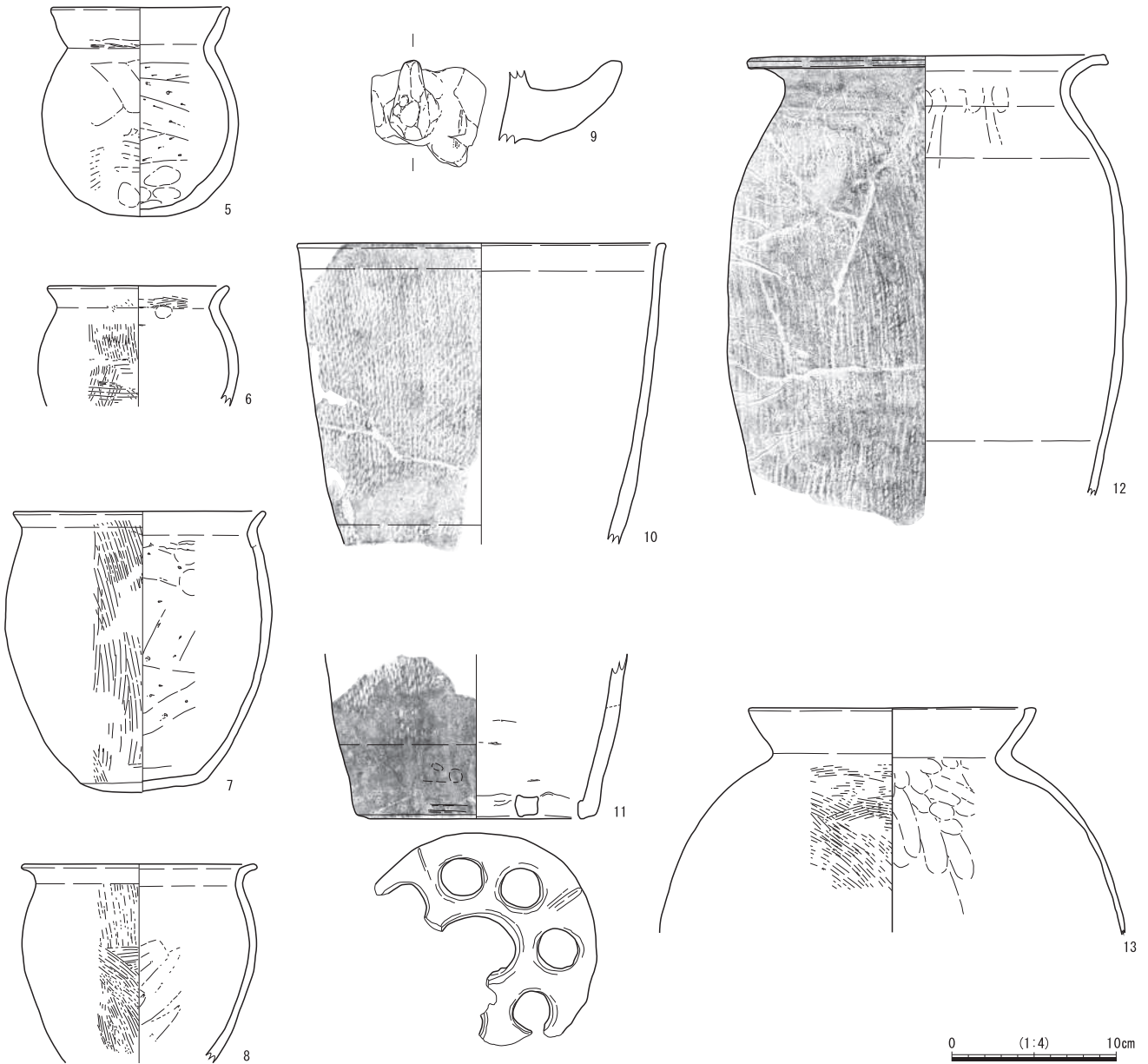
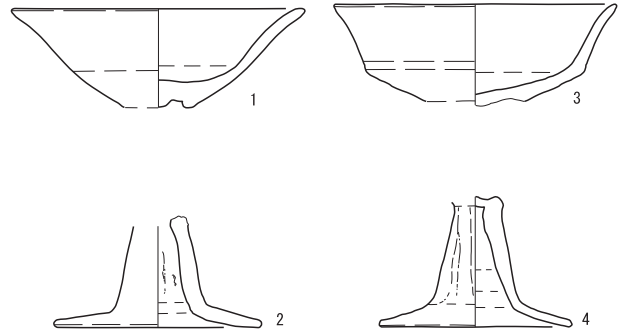


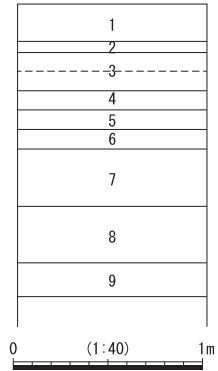
図5 1次調査遺物実測図

第三章 調査の結果

第1節 調査区の基本層序

調査対象は、基礎等の工事により地下の遺構・遺物に影響が及ぶ範囲（以下、調査区と表記）とし、計48か所の調査区を設定し、調査を実施した。

調査区の基本層序は耕土（1層）、床土（2層）、褐灰色シルト層から黒褐色シルト～粘土層（3～6層）を経て、明黄褐色の地山（7層以下）に至る。遺構検出は地山上面で行った。地山の標高は調査区北端で16.9m、南端で16.5mを測り、地形は緩やかに南に向かって傾斜している。



1. 10YR3/1 黒褐色中～粗砂混じりシルト
2. 7.5YR6/4 にぶい橙色シルト
3. 10YR6/1 褐灰色細～中砂混じりシルト
10YR5/1 褐灰色細砂混じりシルト
4. 7.5Y6/2 灰オリーブ色細砂混じりシルト
5. 5Y6/2 灰オリーブ色細～中砂混じりシルト
6. 2.5Y3/2 黒褐色細～中砂混じりシルト～粘土
7. 10YR7/6 明黄褐色シルト～粘土
8. 10YR6/6 明黄褐色粘土
9. 2.5Y6/2 灰黄色中～粗砂混じりシルト

図6 基本層序図

第2節 遺構

調査では、弥生時代後期、古墳時代、平安時代後期から鎌倉時代の各時期にわたる遺構・遺物を確認した。検出した遺構は掘立柱建物跡4棟、溝35条、土坑57基、柱穴210基である。掘立柱建物跡（SB1～4）は、平安時代から鎌倉時代にかけてのもので、全て調査区東側の44区で検出した。溝は弥生時代、古墳時代、中世の各時期のものを検出した。調査区の制約から全容が判明するものは限られる。弥生時代の溝は規模の大きいものと小さいものの2者がある。古墳時代の溝は、第1次調査で検出した溝と一連の可能性が高く、北西から南東にかけて検出した。中世の溝は、現地を確認できる地割に沿っている。土坑は各時期のものを検出した。特に44区で検出した平安時代以前の大型の土坑群は、性格は不明であるものの、埋土の状況は共通している。柱穴は平安時代から鎌倉時代にかけてのもので、44区を中心とする調査区北東域で多く検出した。柱穴内からは埋納された須恵器壺や、類例の少ない須恵器容器、鉄鏃等が出土している。各遺構の詳細は一覧に整理した（表1～5）。以下、主要な遺構について述べる。

(1) 弥生時代の遺構

弥生時代の遺構は、調査区南部を中心に広がり溝・土坑等を検出した。

SD20（図14）は1、9～11区で検出した西から東へ直線的に延びる溝で、延長約20m、幅2m、深さ68cmを測る。溝の肩は角度をもって掘り込まれ、埋土から2時期の変遷が確認できる。溝最下部は炭化物を多く含む粘質の強いシルトである。図示していないが下層からは弥生土器片が出土し、弥生時代後期に位置づけられる。なお、11区以東の12、13区でも南北方向の溝SD60を確認できるが、溝の規模が小さく一連となるかどうか判断できない。

SD49（図14）は10区内で北から東にL字に屈曲する溝で、延長約35.5cm、幅1.1m、深さ42cmを測る。南はSD20に切られ、北は調査区外に延びる。調査段階では溝としたが、土坑の可能性もある。最下層から出土した弥生土器の甕（図16-8）を図示した。遺物の大半は細片で、器表が剥落したものが多い。

SD57（図14）は15区で検出した溝で、埋土・規模等が共通することから20区のSD62と一連の遺構と推測できる。SD62を含む延長は約22mで、幅1.1m、深さ96cmを測る。溝の肩は角度をもって掘り込まれる。溝の下層は自然に埋没し、上層は人為的に埋められたと考えられる。埋土中からは弥生土器の細片が出土している。

SK2（図15）は6区の下層確認トレンチで検出した土坑である。最下層は地山ブロックを多く含み人為的に埋め戻されているが、上層は自然埋没と考えられる。埋土中から弥生土器の壺（図16-1-1、2）が出土した。

SK25（図15）は2区で検出した。SK2の西約30mに位置する平面楕円形の土坑である。埋土は2層に分かれ、上層に径10cmほどの円礫を複数含み、土坑の窪みに破棄されたと思われる。下層から壺（図16-2）など弥生土器6点が出土した。

SK29 (図15) は4区で検出した。SK25の東約13mに位置する平面楕円形の土坑である。埋土は3層に分層でき、中層に地山のブロックが含まれることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。中層の側面際から激しく摩耗し、投棄された状態で鉢・甕・壺 (図16-3、4、5、6) を含め弥生土器8点が出土した。

SK45 (図15) は8区で検出した。SK2の北西9mに位置する平面円形の土坑である。埋土は2層に分層でき、上層の土坑中央部で約10cmの円礫と弥生土器片73点が出土した。底面付近で弥生土器の広口壺 (図16-7) が出土した。

(2) 古墳時代の遺構

SD77 (図14) は25区で検出した北西から南東へ延びる溝である。溝の規模は幅54cm、深さ26cmを測る。湾曲しながら北西に延びると考えられ、その延長線上に29区SD72、33区SD85、38区SD101が位置する。SD101の延長は図7に示す第1次調査SD01・SD02に接続する可能性が高い。SD101は後述のSD94に切られている。これらの溝の幅はやや異なるものの深さは共通し、一連の遺構となる可能性が高い。その場合、第1次調査を含めた総延長は約90mとなる。性格は判然としないが、水路ではなく、集落内の区画施設の可能性を考えておきたい。遺物はSD77上層から古墳時代中期の韓式系軟質土器の甑、鉢 (図16-9、11)、SD101から長胴甕と考えられる韓式系土器 (図16-12) が出土した。

SD95 (図14) は38区で検出した北西から南東へ延びる溝である。溝の規模は幅72cm、深さ9.5cmを測る。遺物は出土しなかったが、埋土はSD101と共通している。SD95の延長はSD77と同様、第1次調査SD01・SD02に接続する可能性が高い。その場合、検出部の総延長は約50mとなる。

(3) 平安時代以降の遺構

SB1 (図12) は44区南北トレンチ北部で検出した掘立柱建物跡である。検出状況から2間×3間以上の東西棟の総柱建物跡と考えられる。SP153とSP168を基準とした主軸方向はN12°Eで、検出した平面規模は梁行2間で2.2m、桁行3間で6.7mを測る。遺物はSP168から土師器皿 (図17-23) が、SP289から土錘 (図17-30) 等が出土した他、弥生土器、土師器、陶器等が出土した。

SB2 (図13) はSB1と平面的に重なる位置で検出した掘立柱建物跡である。検出状況から1間×4間以上の東西棟の建物跡と考えられる。平面プランはSB1より一回り小さい。柱穴の直接の切り合いはなく、建物跡の新旧関係は不明である。SP150とSP170を基準とした主軸方向はN14°Eである。平面規模は梁行1間で3.3m、桁行4間で10.1mを測る。遺物はSP170から須恵器椀 (図17-24)、土錘 (図17-25) が出土したほか、弥生土器の細片、土師器、粘土塊等が出土した。

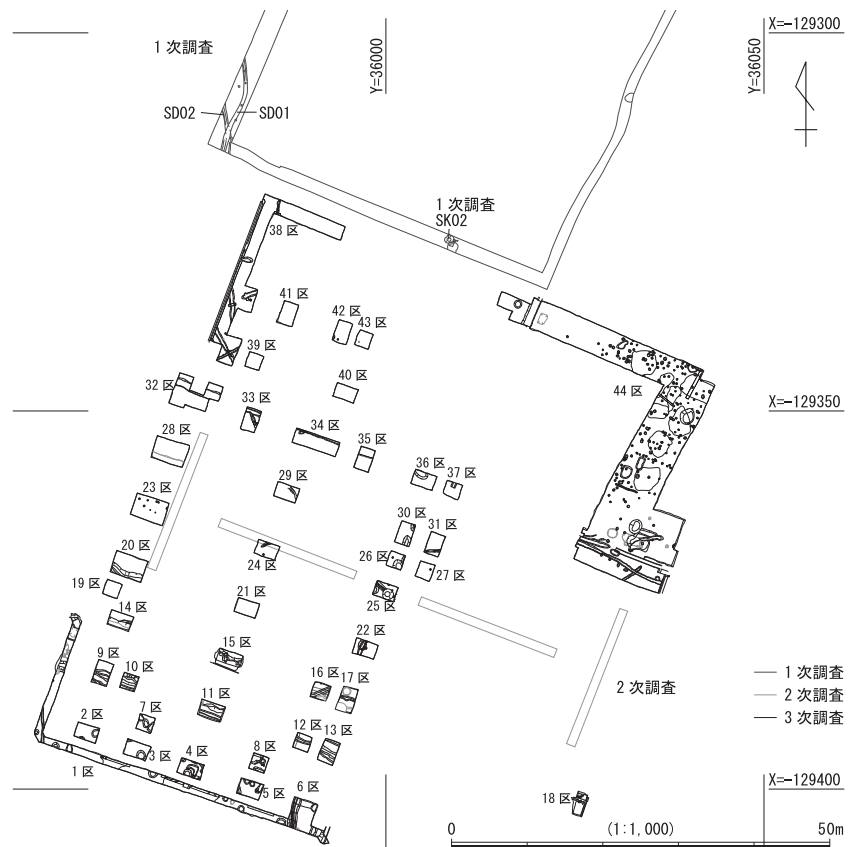


図7 調査区全体図

SB3 (図13) はSB1の南約4mで検出した掘立柱建物跡である。検出状況から2間×3間以上の南北棟の総柱建物跡と考えられる。SP191とSP230を基準とした主軸方向はN23° Eで、飾磨郡条里 (N21° E) とほぼ一致している。検出した平面規模は梁行2間で4.6m、桁行3間で6.0mを測る。遺物はSP194から白磁碗 (図17-26) と土師器が出土したほか、弥生土器の細片、須恵器、土師器等が出土した。

SB4 (図13) はSB3の南約21mで検出した掘立柱建物跡である。検出状況から1間×3間以上の東西棟の建物跡と考えられ、SP113とSP267を基準とした主軸方向はN31° Eで、検出した平面規模は梁行1間で3.9m、桁行3間で3.8mを測る。柱穴から遺物は出土しなかった。

SD85 (図14) は調査区西部にあたる32～35区で検出した東西方向に延びる溝で、延長約29m、深さ11cmを測る。SK86、SD87に切られる。埋土は上下2層に分かれ、溝底から須恵器瓶 (図17-14) と土師器等が出土した。

SD94 (図14) は38区で検出した北東から南西へ延びる溝である。延長約3m、幅40cm、深さ15cmを測る。SD101を切る。埋土は砂が多く混じり、炭化物を含む。溝底部からは礫がまとまって出土した。図示していないが、土師器2点が出土した。

SK151 (図15) は44区東西トレンチ東部北側で検出した平面円形の土坑である。埋土内は炭化物を多量に含み、回転糸切りの土師器碗 (図17-19) と平高台碗 (図17-20) が出土している。

SK302 (図15) は44区南北トレンチ北部で検出した平面円形の土坑である。断面は断側面上部がやや内側に膨らみ、オーバーハングしている。埋土は炭化物を多く含み、土師器皿 (図17-31) や土師器鉢 (図17-32) が出土した。

SP141 (図14) は44区東西トレンチ東部で検出した、円形の柱穴である。底面から須恵器容器1点 (図17-17)、埋土上層で直立気味の状態で鉄鏃1点 (図17-18) が出土した。須恵器容器は後述するように経塚等で出土していることから、本遺構も祭祀的な性格のもの可能性がある。検出位置がSB1・SB2と平面的に重なることから、これらの建物遺構と関連していると考えられる。

SP199 (図14) は44区南北トレンチ中央部で検出した、円形の柱穴である。調査範囲内においては、建物を構成するものではないが、掘方内から須恵器壺 (図17-27) が正位に据えられた状態で出土した。上部は扁平な石で蓋をしていた。壺内には土砂が半分ほど流入しており、篩にかけたが遺物等は確認できなかった。掘方は須恵器壺より一回り大きい規模であることから、当初から須恵器を埋納するために掘られたものと考えられる。近接してSB3とSB4があるが、これらとの関連は不明である。

(4) SX400～408

調査区東部の44区で時期・性格不明の遺構 (SX400～408) を9基検出した。SX401、407を除きやや不整な方形状の平面を呈す。SX401とSX407は南北に長い楕円形を呈している。平面規模は直径3m程度で、検出段階では基盤層に類似した礫混じりシルトの土坑 (以下、白色土坑) を黒色シルトの土坑 (黒色土坑) が切り込むような状況であった。

いずれも深さ1m程度で、黒色土坑の断面はU字状を呈し、白色土坑の底面まで掘り込まれるものとやや浅いものがある。白色土坑は一方を垂直に掘り、その反対側は緩やかに掘り込んでいる。断面から白色土坑と黒色土坑は切り合うことが確認でき、白色土坑埋没後に黒色土坑を掘り込んでいる。この様相は全ての遺構で共通している。

白色土坑の底面は不整形で凸凹が顕著である。遺物は遺構検出時に弥生土器が出土したが、埋土中からは全く出土していないため、時期は不明である。遺構上面から中世の柱穴群が掘り込まれることから、それ以前の遺構であることは確実である。一見、風倒木の痕跡のようにも見えるが、明らかに白色土坑と黒色土坑は切り合っており、人為的なものであることは間違いない。管見の範囲で類似する遺構はなく、今後の検討が必要である。

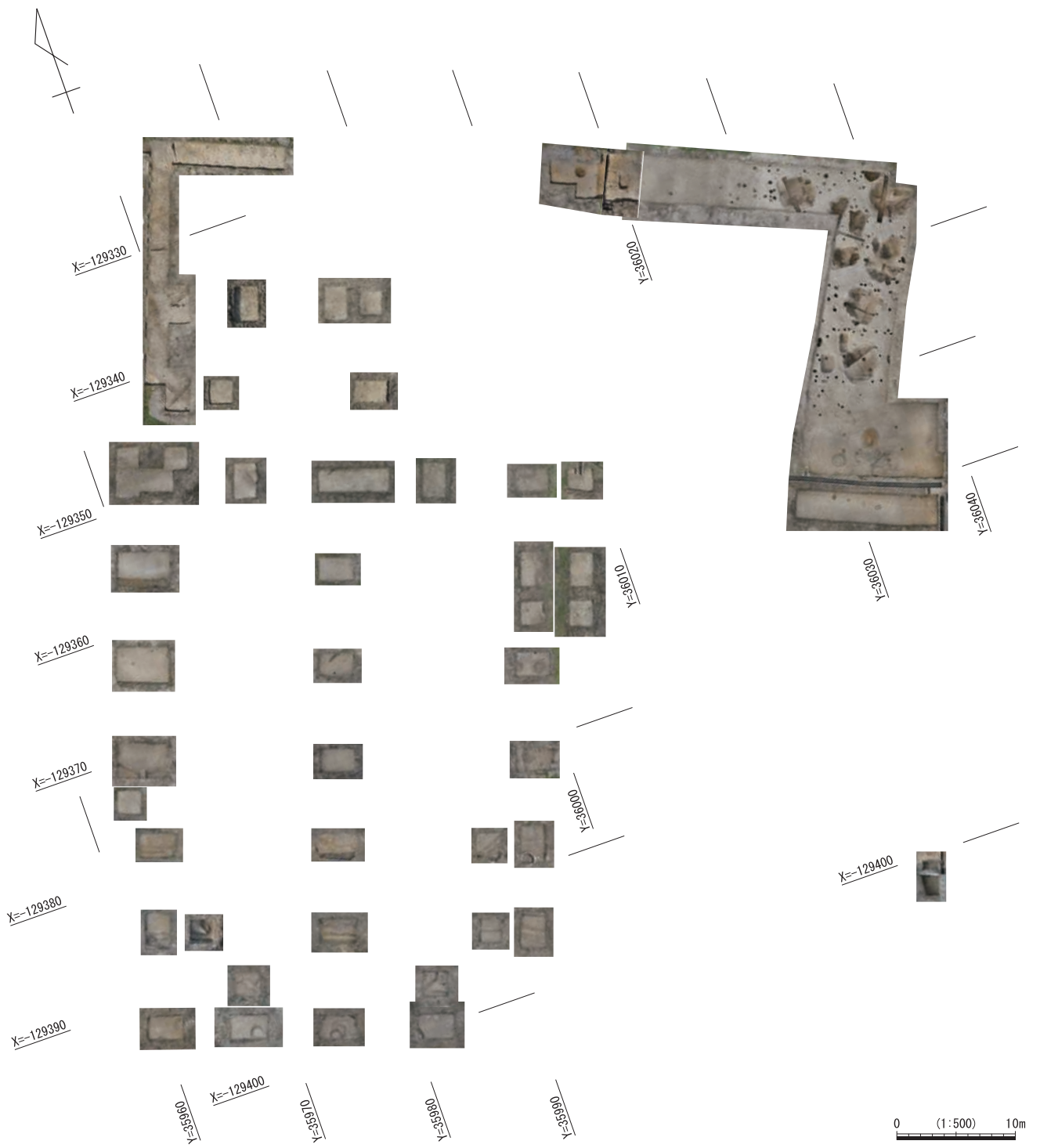


図8 調査区全体図

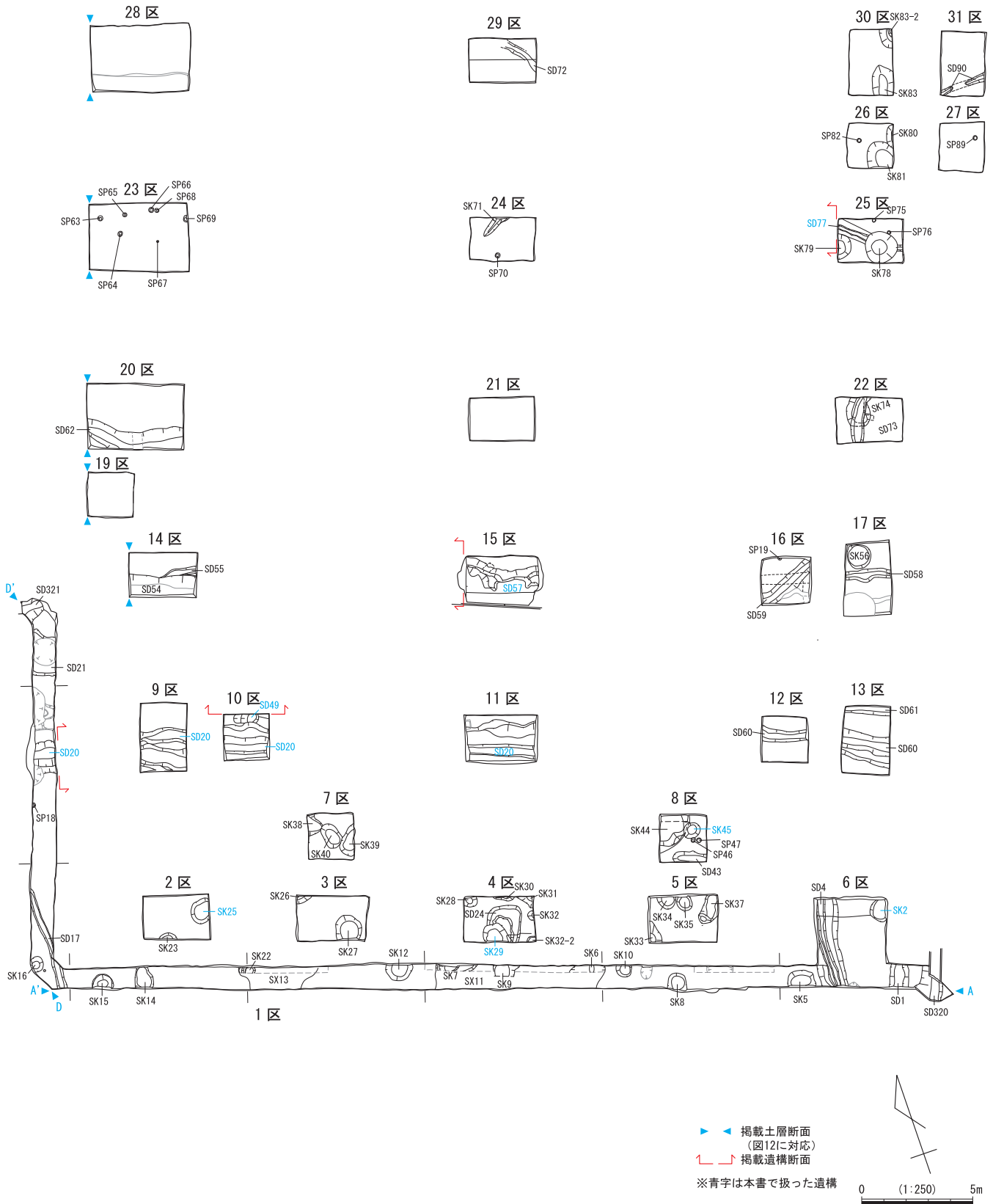


図9 南側調査区 平面図

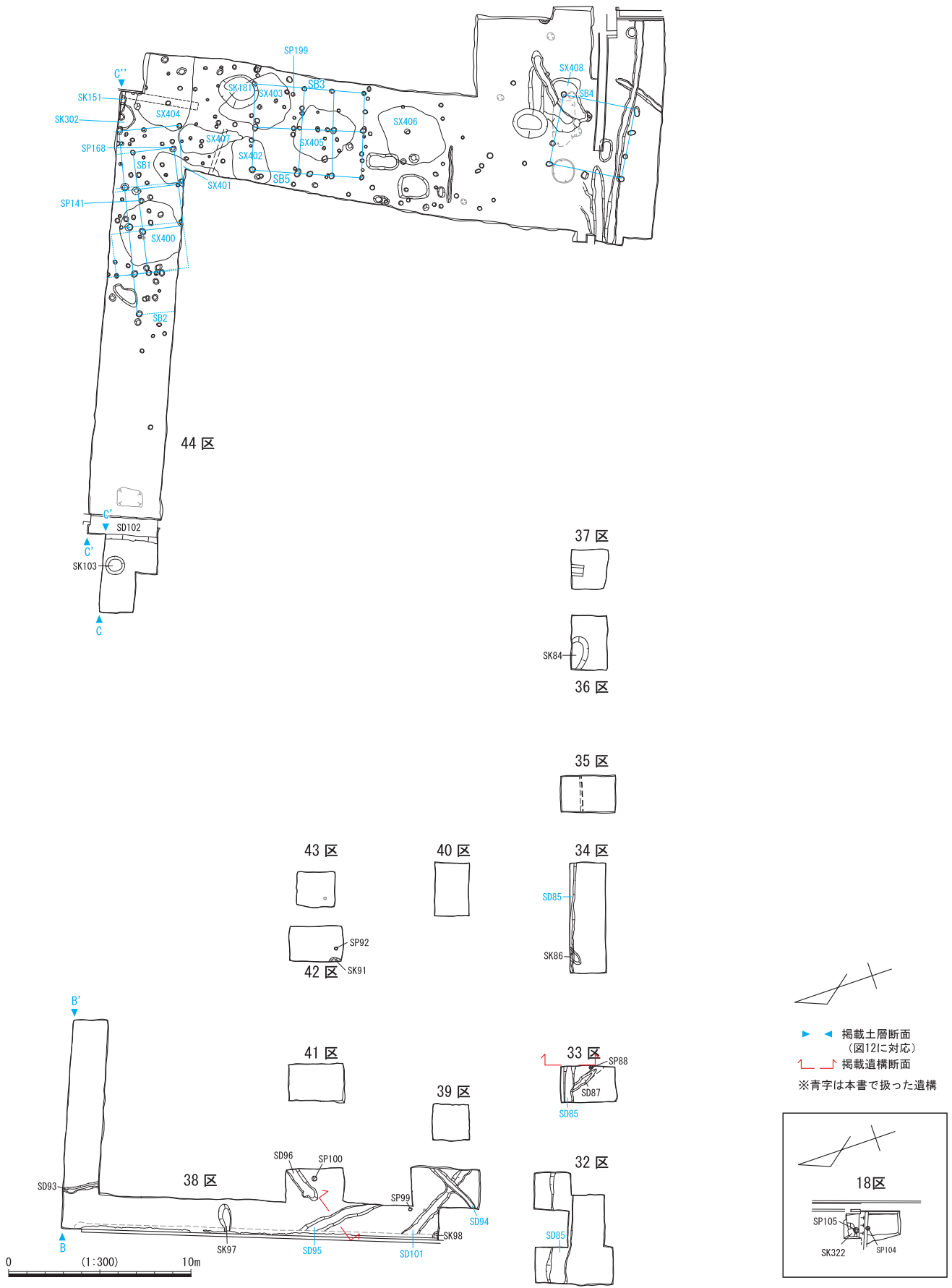


図10 北側調査区 平面図

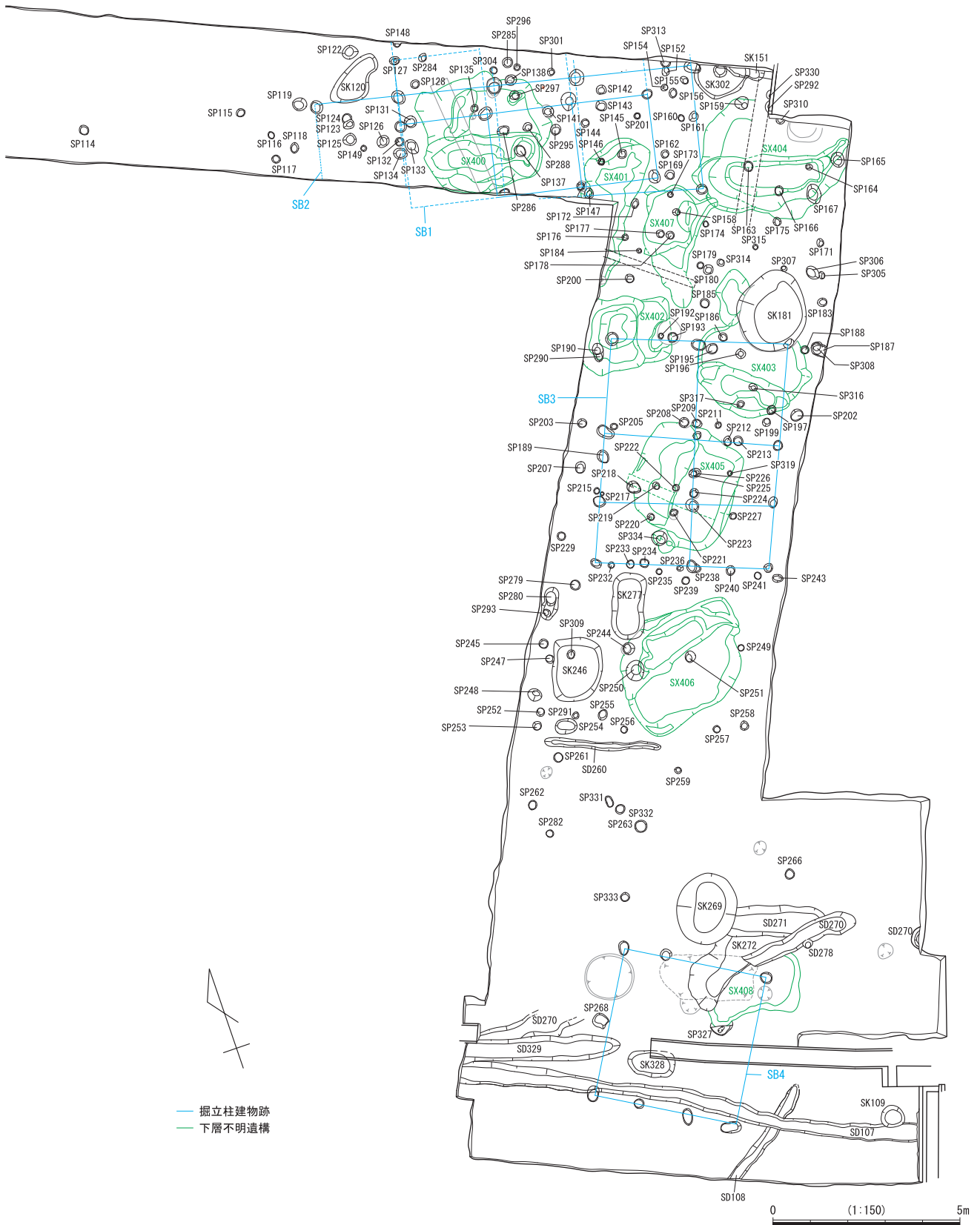
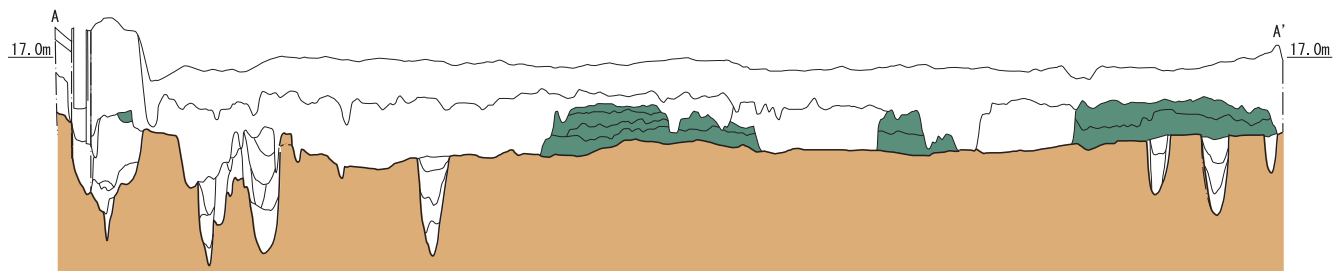
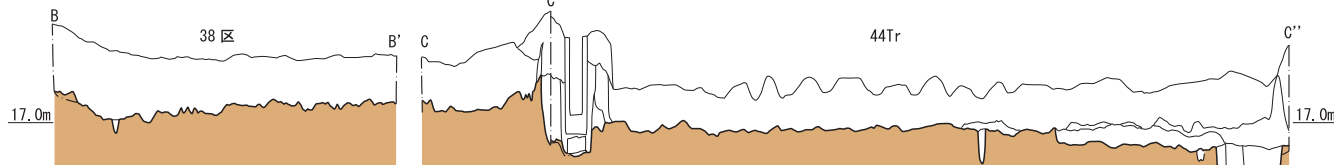


图11 44区 平面图

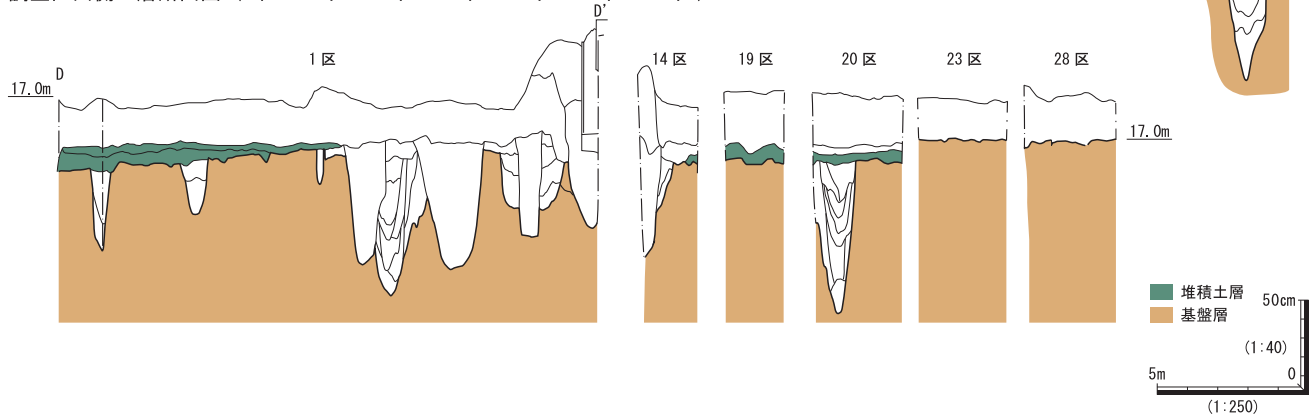
調査区南側土層断面図 (1区)



調査区北側土層断面図 (38区・44区)



調査区西側土層断面図 (1区・14区・19区・20区・23区・28区・38区)



SB1

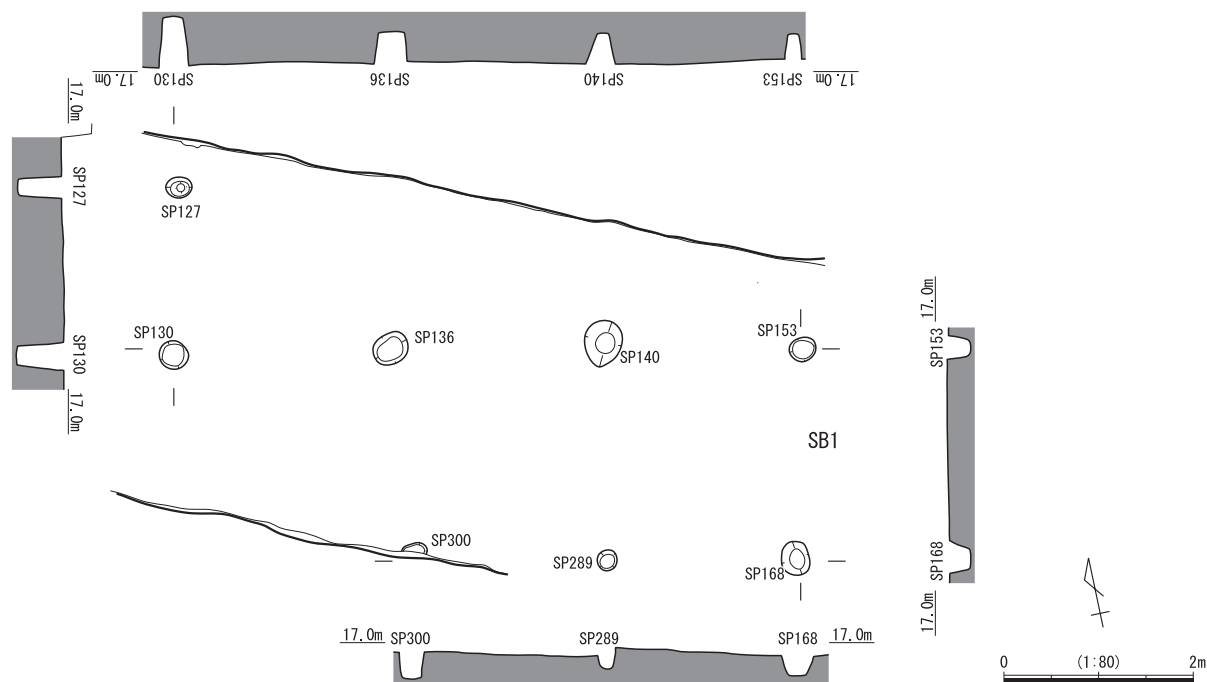


图12 調査区土層断面図、SB1 平断面図

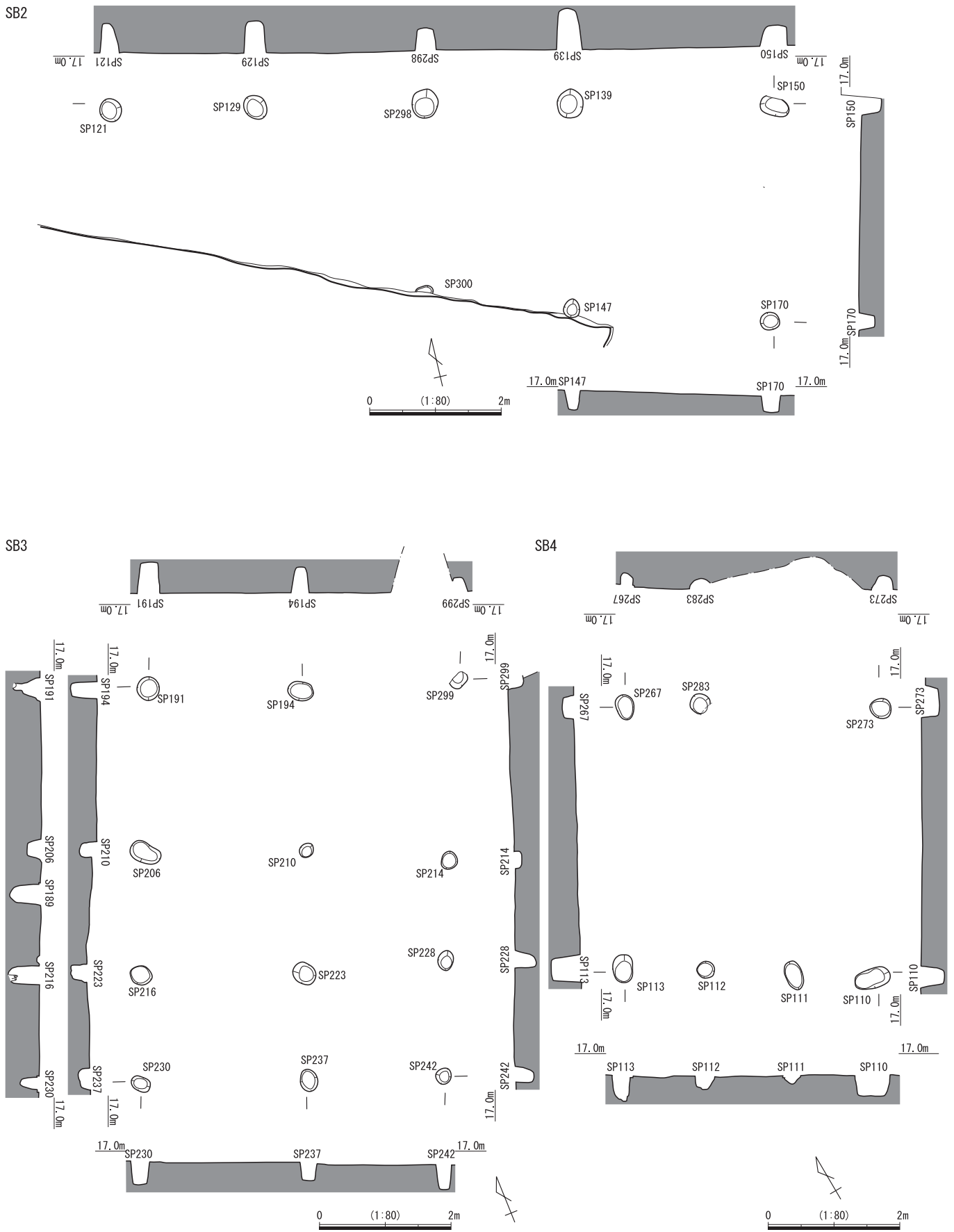
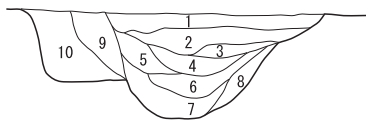


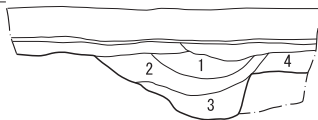
图13 SB2 · SB3 · SB4 平面断面图

SD20
N
17.0m



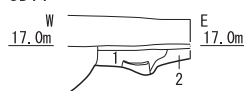
1. 2.5Y5/1 黄灰色細～中砂混じりシルト
2. 2.5Y6/1 黄灰色細砂混じりシルト
3. 7.5Y7/1 灰白色中～極細砂シルト
4. 7.5Y5/1 灰白色細砂～中砂シルト
5. 10YR4/1 褐灰色中～粗砂混じりシルト φ0.5 cm大礫含む
6. 10YR3/1 黒褐色粘土 炭化物含む
7. 7.5YR4/1 褐灰色粘土 炭化物含む
8. 10YR5/1 褐灰色細砂混じりシルト 地山ブロック含む
9. 7.5Y6/1 灰色細～中砂混じりシルト
10. 7.5Y6/1 灰色細砂混じりシルト φ0.3 cm大礫含む

SD49
S 17.0m W 17.0m



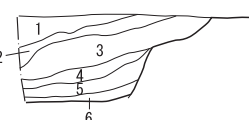
1. 2.5Y4/1 黄灰色中～粗砂混じりシルト
2. 2.5Y5/1 黄灰色シルト～粘土
3. 2.5Y5/1 黄灰色中砂混じりシルト
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色細砂混じりシルト

SD77



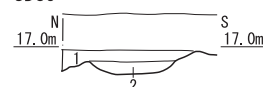
1. 10YR5/1 褐灰色細砂混じりシルト
2. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘土

SD57
S 17.0m N 17.0m



1. 2.5Y5/1 黄灰色細～中砂混じりシルト
2. 2.5Y4/1 黄灰色中～粗砂混じりシルト
3. 10YR5/1 褐灰色中砂混じりシルト 地山ブロック含む
4. 2.5Y4/1 黄灰色細砂混じりシルト
5. 10Y5/1 灰色細砂混じりシルト
6. 7.5Y7/1 灰白色中～粗砂 (流水による堆積)

SD85



1. 10YR6/1 褐灰色中～粗砂混じりシルト
2. 10YR6/1 褐灰色細砂混じりシルト

SD94



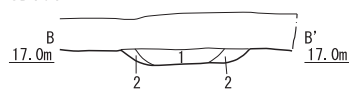
1. 10YR5/1 黒褐色中砂混じりシルト 炭化物含む φ25 cm大礫含む

SD95



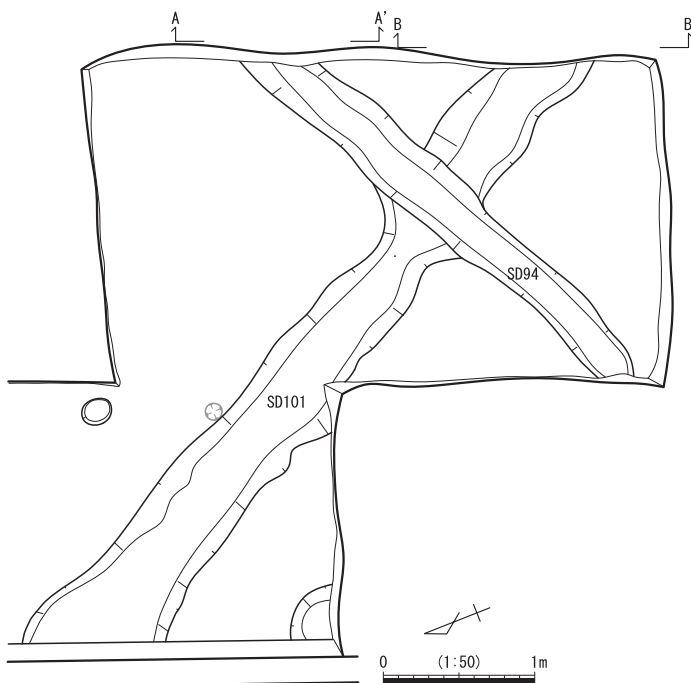
1. 2.5Y6/1 黄灰色細砂混じりシルト

SD101

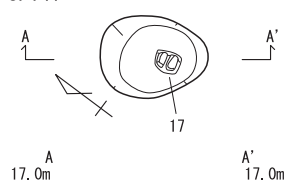


1. 10YR3/1 黒褐色細～中砂混じりシルト
2. 10YR4/1 褐灰色極細砂混じりシルト

※SD20・SD57・SD49・SD77・SD85・SD95の断面位置は図9、10に対応

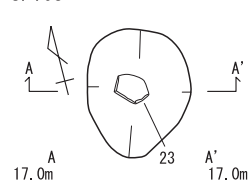


SP141



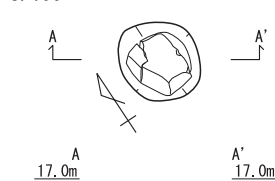
1. 10YR4/1 褐灰色中～粗砂混じりシルト 4 cm大礫含む
2. 10YR5/1 灰色極細砂混じりシルト

SP168



1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂混じりシルト 炭化物少量、地山ブロック多く混じる
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂混じりシルト

SP199



1. 2.5Y4/1 黄灰色細～中砂混じりシルト
2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂混じりシルト

0 (1:20) 50cm

図14 SD20・SD49・SD57・SD77・SD85・SD95 断面図 SD94・SD101・SP141・SP168・SP199 平・断面図

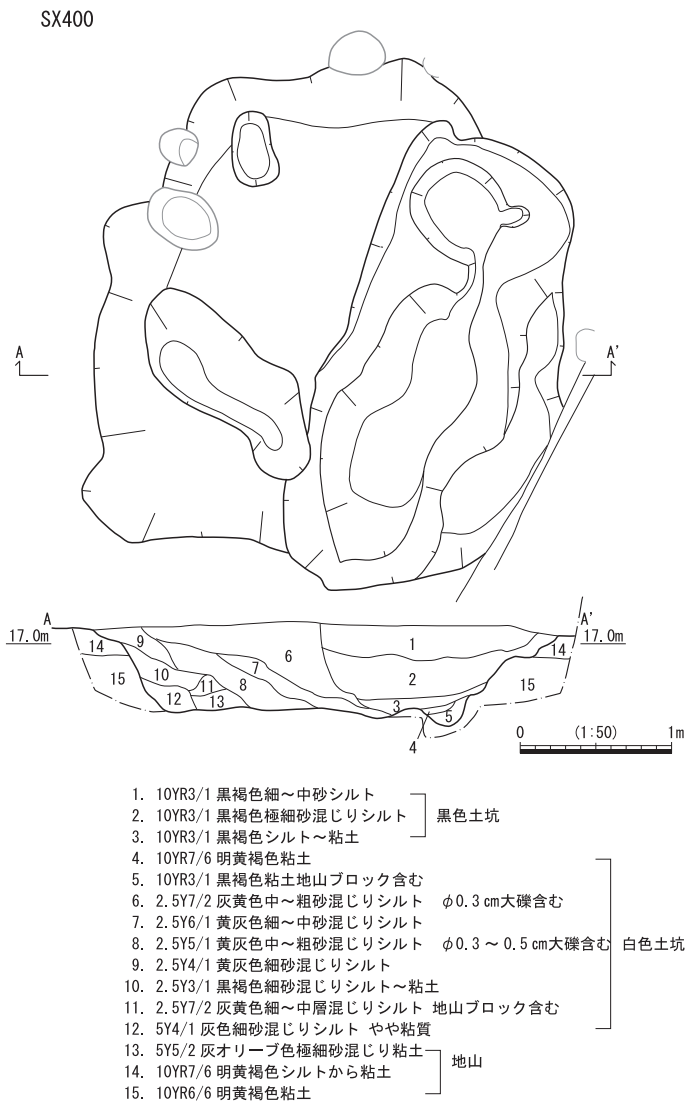
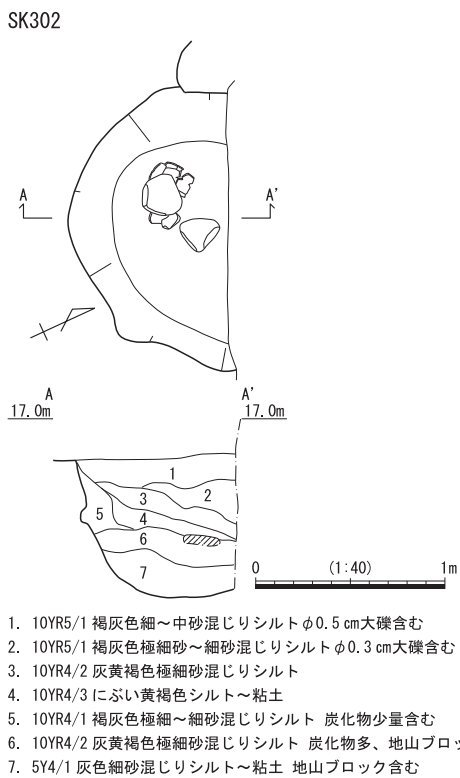
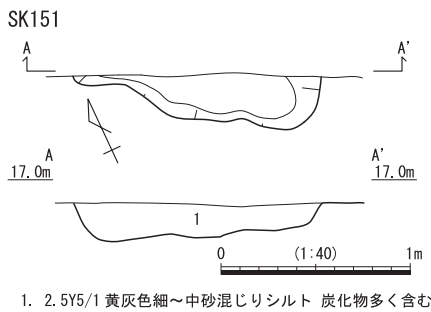
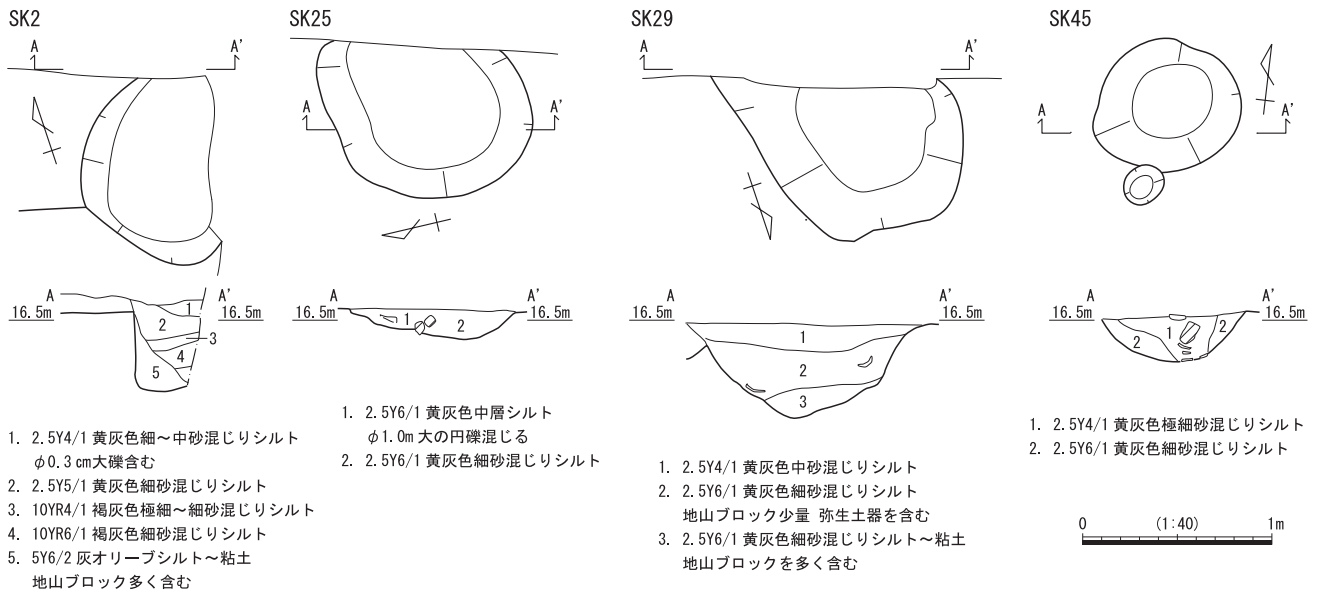


図15 SK2・SK25・SK29・SK45・SK151・SK302・SX400 平断面図

表1:小幡方遺跡第3次発掘調査検出遺構一覧(1)

調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項	
			長軸 (3辺) (直径)	短軸(辺)	深さ (検出面 から)			
1区	SD1	東端で検出。南北方向の溝で、近世以降の水路SD320により攪乱され規模不明。断面は西の肩部からゆるやかに下がった漏斗状。	(172)	—	(56)	上層は褐色シルト層、下層は灰黄・黒褐色粘土層。	中世の水路か。	
6区	SK2	北西隅で検出。下層確認トレンチに位置していたため平面形不明で、断面形は方形。	(104)	(38)	48	最下層は地山ブロックを多く含む。自然埋没。最下層内から弥生土器壺体部他、56点出土。	※遺構図15、遺物図16-1-1、1-2	
1・6区	SD4	南北方向の溝。断面は最下部に段をもち、漏斗状に窪む。	上端 120 下端 18	—	68	最下部は段をもち、中層に砂層がある。	1区、9～11区SD20の延長部か。	
1区	SK5	東部、SD4の西で検出。平面は円形で調査区外に広がる。断面は椀状。	130	—	66	レンズ状に堆積。埋土中から弥生土器14点出土。		
	SK6	南部中央で検出。SX11内で一部を確認。平面は不明で、断面は血状。	(138)	—	(32)	黄灰色シルト、埋土の変化は少ない。		
	SK7	南部中央で検出。SX11内で一部を確認。平面は不明。断面は底面西側が大きく窪む椀状。	(190)	—	(58)	上部は黄灰色混砂シルト層、下部は灰黄褐色混砂シルト層。		
	SK8	南部東側で検出。平面は円形で調査区外に広がる。断面は椀状。	106	—	52	埋土はレンズ状に堆積。		
	SK9	南部中央で検出。SX11内で検出。平面は不明。断面は西側が窪む。	(120)	—	(28)	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。	4区SD24の延長と思われる。	
	SK10	南部中央で検出。SX11内で検出。平面は不明で、断面は椀状。	(68)	—	(28)	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。		
	SX11	南部中央で検出。自然の落込み、底面でSK6・7・9を検出。	(8.4)	—	(15)	褐色細砂混じりシルト。		
	SK12	南部中央、SX11西で検出。平面は楕円形で調査区外に広がる。断面は台形状。	118	70	49.5	上層は黄灰色シルト層、下層は灰色シルト～粘土層。上部埋土には隙が混じる。		
	SX13	南部西側で検出。自然の落込み、底面でSK22を検出。	(3.4)	—	(15)	褐色細砂混じりシルト。		
	SK14	南部西側で検出。平面は楕円形で、南北が調査区外へ広がる。断面は椀状。	(88.6)	85.4	30	褐色混砂シルト、埋土の変化は少ない。壁面に黄灰色混砂シルト。		
	SK15	南部西側で検出。平面は円形で、南側が調査区外に広がる。断面は椀状。	96	—	40	レンズ状に堆積。上層は黄灰色シルト層、下層は灰白色シルト～粘土層。		
	SK16	南部西側で検出。平面は円形で、西側が調査区外に広がる。断面は底面に向かって狭くなる台形状。	68	—	42	黄灰色シルト、埋土の変化は少ない。		
	SD17	南部西側で検出。南北方向の溝で、断面は椀状。	上端 24 下端 12	—	14	灰色シルトでしまりが弱く、埋土の変化は少ない。		
	SP18	西部南側で検出。平面は円形で、西側は調査区外に広がる。断面はU字状。	22	—	18	単層。灰色シルト。		
	16区	SP19	北壁際で検出。平面は円形か。断面はU字状。	(16)	(8)	5	単層。黄灰色中砂混りシルト。	
	1区、9～11区	SD20	1区西、9～11区で北肩を検出。東西方向の溝で、SD60とは異なり、東方で屈曲する。SD49に切られる。断面は最下部に段をもち垂直気味に下がる。	上端 202 下端 30	—	68	2時期確認出来る。新流路の最下部は灰白色混砂シルト層。上部は埋め戻される。	※遺構図14
	1区	SD21	西部北端で検出。東西方向の溝と考えられる。断面は垂直気味に立ち上がる。底面は平坦。	上端 (244) 下端 148	—	34	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。	断面形状は、12・13区のSD60と類似するため、一連の溝の可能性が考えられる。
2区	SK22	南部西側、SX13サブトレンチ内で検出。平面は不明。断面形は血状。	(84)	—	(24)	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。		
2区	SK23	南壁際で検出。南は調査区外に広がる。平面は不明。断面は椀状。	(82)	(26)	19.3	上部は黄灰色混砂シルト層、下部は褐色混砂シルト層。		
4区	SD24	中央で検出。平面はSK29を囲むようにコの字状で、断面は椀状。SK29の一部を切られる。	75.2	51.4	10.4	埋土はSK29とは異なり、単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土最下部に炭化物を多く含む。機能は不明。	1区SK9は延長部と思われる。	
2区	SK25	東壁際で検出。平面は楕円形か。断面は血状。	120	(88)	30.7	黄灰色混砂シルト。2層に分かれるが埋土の変化は少ない。下層内から弥生土器6点出土。	※遺構図15、遺物図16-2	
3区	SK26	北西隅で検出。北は調査区外に広がる。平面・断面ともに不明。底面は平坦。	(34.9)	(67.9)	12.5	遺構面を検出した部分は、落込みの最深部であることを北壁で確認。	基礎層を削り込むことから、人為的なものと考えられる。	
3区	SK27	北西隅で検出。平面は円形で、南は調査区外に広がる。断面は椀状。	(113)	118.6	52	埋土はたわみレンズ状に堆積することから自然に埋没。最下部は地山ブロックを多く含む。上層の埋土内から、弥生土器細片4点出土。		
4区	SK28	北西隅で検出。平面は円形か、北西側は調査区外に広がる。断面は椀状。	(82)	(64.1)	40	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。		
4区	SK29	南部で検出。平面は楕円形で、南側が調査区外に広がる。断面は椀状。	(107)	78.1	50.4	黄灰色混砂シルト。3層に分層でき、中層に地山のブロックが含まれる。弥生土器8点出土。	※遺構図15、遺物図16-3、4、5、6	
4区	SK30	北側で検出。平面は不明で、北側は調査区外に広がる。断面は血状。SK31に切られる。	(110)	(19.3)	26	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。		
4区	SK31	北東隅で検出。平面は不明で、北側が調査区外に広がる。断面は血状。SK30を切る。	88.4	(37.8)	45	上部が黄灰色混砂シルト。最下部は黄灰色混砂シルト～粘土が堆積。		
4区	SK32	東部で検出。平面は不明で、東側が調査区外に広がる。断面は椀状。SK30に切られる。	(52)	(27.2)	26	上部褐色混砂シルト。下部灰白色混砂シルト、炭化物を含む。		
4区	SK32-2	南東隅で検出。平面は不明で、東側が調査区外に広がる。断面は椀状。	(40)	(22)	22	単層。黄灰色中砂混りシルト。		
5区	SK33	南西隅で検出。平面は不明で、西側が調査区外に広がる。断面は台形状で、底面は平坦。	(94)	(50.5)	51	黄灰色シルト～混砂シルト、埋土の変化は少ない。		
5区	SK34	北側で検出。平面は楕円形で、断面は血状。北側が調査区外に広がる。	(82)	82.9	14	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。埋土底部に地山ブロック混ざる。		
5区	SK35	北側で検出。平面は楕円形で、北側が調査区外に広がる。断面はやや緩く立ち上がる椀状。	(61.6)	67.7	17	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
5区	SK37	北東隅で検出。平面は楕円形で、北東側が調査区外に広がる。断面は血状。	(130)	(76.3)	10	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器1点出土。		
7区	SK38	北西隅で検出。平面は楕円形で、北西側が調査区外に広がる。断面は椀状。	(94)	(67.7)	23	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。埋土底部に地山ブロック混ざる。		
7区	SK39	東側で検出。平面は楕円形で、東側が調査区外に広がる。断面は血状。SK40を切る。	136.8	(56.1)	32.4	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。埋土底部に地山ブロック混ざる。		
7区	SK40	中央で検出。平面は楕円形で、断面は湾曲する底面から緩やかに立ち上がる。SK39に切られる。	114.1	71.2	26	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。上部に少量の炭化物。下層から弥生土器2点出土。		
8区	SD43	南西部で検出。長楕円形の土坑が東西方向の溝で、断面は椀状。南東部が調査区外に延びる。	上端 47.2 下端 27.7	—	14	単層。褐色細砂混りシルト。		
8区	SK44	北西部で検出。平面は楕円形に近いもの、検出した東部は直線的に延び、北西部が調査区外に広がる。断面は南から北に向かっては段をもちながら、緩やかに傾斜し、底面は平坦となる。SK45に切られる。	(136)	(128.9)	62	上部は黄灰色混砂シルト、下部は灰色シルト～粘土。最下層は地山ブロックが多く混じる。上層の側面付近で比較的残存状況の良い弥生土器壺の口縁～体部上半がおしつぶされた状態で出土。最下層内からは細片4点が出た。	当調査で検出した遺構内では遺物量が多い。	
8区	SK45	中央で検出。平面は円形で、断面は血状。SK44を切る。	76	(60.7)	23	土坑中央で約10cmの円壁と弥生土器の細片73点出土。	※遺構図15、遺物図16-7	
8区	SP46	中央部で検出。平面は円形。	20.6	—	0.08	単層。5Y6/1 灰色細砂混りシルト。		
8区	SP47	中央部で検出。平面は円形。	21.6	—	23.5	単層。5Y6/1 灰色細砂混りシルト。		
10区	SD49	北壁際で検出。北から東にL字に屈曲する溝で、北は調査区外に延びる。断面形は漏斗状。SD20に切られる。	112	—	42	黄灰色混砂シルトが主体。最下層で弥生土器104点が出た。	※遺構図14、遺物図16-8	
14区	SD54	南部で検出。東西方向の溝。SD55を切り、攪乱で切られている。	(58)	—	(9.5)	灰色混砂シルト～細砂、埋土の変化は少ない。17区SD58と埋土、断面形類似、延長部か。		
14区	SD55	東部で検出。東西方向の溝で、断面形は椀状。SK54に切られる。	32	—	5	上層は灰色シルト、下層は灰白色中～粗砂。攪乱により、確認できた埋土は一部のみ。		
17区	SK56	北部で検出。平面は円形で、断面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。	98	—	38	灰色混砂シルト～粘土、埋土の変化は少ない。上層埋没土内から、須恵器1点、青磁1点出土。近世以降か。		
15区	SD57	北部で検出。屈曲し東から北西方向の溝。断面は直立気味に立ち上がったのち段を持ち、上方へ開く。側面は凹凸がみられ、底面は平坦。	上端 (162) 下端 (124)	—	96	最下部に砂層。砂層最上部から須恵器1点、瓦器1点、上部の埋没土内から弥生土器28点出土。	20区のSD62が延長部と考えられる。※遺構図14	
17区	SD58	中央部で検出。東西方向の溝で、断面は椀状。	上端42 下端26	—	14	灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。埋土が13区SD61と類似。16区の壁で延長部を確認。埋土中から須恵器2点出土。	16区の壁で延長部を確認。14区SD54、55も延長部か。埋土類似。	
16区	SD59	中央部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は台形状。SD58に切られる。	上端72 下端25	—	52	褐色混砂シルト、埋土の変化は少ない。北に位置する22区SD73とは埋土、断面形状が異なる。		

表2:小婦方遺跡第3次発掘調査検出遺構一覧(2)

調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項
			長軸(辺) (直径)	短軸(辺)	深さ (検出面 から)		
12-13区	SD60	中央部で検出。東西方向の溝で、断面は漏斗状。	上端162 下端51	—	44	上部は灰黄色混砂シルト、下部は灰黄褐色混砂シルト。平面でU字状部分と皿状部分の主軸が異なり、上部の底面で粗砂の層がみられることから2時期の溝が同一位置で重複していたと考えられる。	
13区	SD61	北部で南肩を検出。東西方向の溝で、断面は椀状。	上端(34) 下端(23)	—	14	灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。	埋土が17区SD58と類似。
20区	SD62	南部で検出。西側がやや北へ屈曲する東西方向の溝で、南側は調査区外に延びる。	上端(136) 下端35	—	78	レンズ状に堆積。上部に炭化物を多く含む。最下部は流水、滞水の痕跡がみられる。埋土中から弥生土器2点出土。	15区SD57の延長部と考えられる。
23区	SP63	西部で検出。平面は円形。	23	—	14.2	単層。灰色細砂混りシルト。	
23区	SP64	西部で検出。平面は楕円形。	25	20	17.2	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP65	西部で検出。平面は円形。	19	—	8.7	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP66	東部で検出。平面は円形。	24	—	7.8	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP67	東部で検出。平面は円形。	10	—	8.9	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP68	東部で検出。平面は円形。	18	—	6.8	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP69	東部で検出。東側が調査区外に広がるため不明。断面はU字状。	(23)	(18)	22	上部及び北側に灰黄色混砂シルト、南側側に褐色混砂シルト。	
	SP70	南部で検出。平面は円形。	23	—	31.4	単層。灰色細砂混りシルト	
24区	SK71	北部で検出。平面は楕円形。北側が調査区外に広がる。断面は椀状で、底面に凹凸がある。	(115.2)	35.7	39	黄灰色混砂シルト、埋土の変化は少ない。	
29区	SD72	北東部で検出。北西から南東方向の溝で、断面は浅い皿状。	上端(37) 断面85 下端28	—	12	黒褐色混砂シルト。検出時は溝の最深部の一部を確認。断面観察で溝と判断。	25区 SD77、33区 SD67と同一の溝と考えられる。
22区	SD73	西部で検出。北から南方向の溝で、断面はほぼ椀状。SK74を切る。	上端(37) (85) 下端28	—	25	単層。黄灰色細～中砂混りシルト。	
	SK74	西部で検出。平面は楕円形、北側が調査区外に広がる。SD73に切られる。	131.4	107.5	47.9	上部は灰黄褐色混砂シルト、下部は褐色シルト～粘土。	
25区	SP75	南部で検出。平面は円形で、断面は方形。	16	—	40	単層。灰色細砂混りシルト。	
	SP76	中央部東側で検出。平面は円形。	16	—	13.1	単層。埋土は弥生時代と類似。	
	SD77	中央部で検出。北西から南東方向の溝で、断面は皿状。SK78に切られる。	上端54 下端15	—	26	東は単層、西は2層に分かれる。遺物は西端の上層で重なりまとまって葬式土器、甕、鉢など土器6点が出土。機械掘削時に遺物を確認。	29区 SD72、33区 SD67と同一の溝と考えられる。 ※遺構図14、遺物図16-9、10、11
	SK78	中央部で検出。平面は円形。SD77を切る。	(140.3)	—	52.2	最下部に礫が混じるが単層。褐色中砂混りシルト。地山ブロック含む。	検出時、平面形は正円を呈す。半截を行ったところ埋土は地山ブロックを噛み軟弱であったことから、近世以降の井戸と考えられる。
	SK79	西端部で検出。平面は不明で、西側が調査区外に広がる。断面は椀状。	(126)	22.4	45	上層は褐色混砂シルト、下層は灰白色混砂シルト。埋土のしまりは弱い。	
26区	SK80	北東部で検出。平面は不明で、東側が調査区外に広がる。断面は椀状。SK81に切られる。	(116)	(27.8)	39	褐色混砂シルト～粘土。埋土のしまりは弱い。最下部がやや粘質であるが、埋土の変化は少ない。	
	SK81	南部で検出。平面は楕円形で南側が調査区外に広がる。断面は椀状。SK80を切る。	(140)	(132.8)	31.7	褐色混砂シルト～粘土。埋土のしまりは弱い。最下部がやや粘質であるが、埋土の変化は少ない。	
	SP82	西部で検出。平面は円形。	19	—	13.4	単層。灰色細砂混りシルト。	
30区	SK83	南東部で検出。平面は楕円形で南東側が調査区外に広がる。断面は皿状で底面に凹凸がある。	(134)	(97)	25	褐色混砂シルト。埋土のしまりは弱い。最下部がやや粘質であるが、埋土の変化は少ない。	
	SK83-2	南東部で検出。平面は楕円形で北東側が調査区外に広がる。断面は皿状。	(88)	(54)	22	褐色シルト。埋土のしまりは弱い。最下部がやや粘質であるが、埋土の変化は少ない。	
36区	SK84	北西部で検出。平面は楕円形で、北西側が調査区外に広がる。断面は皿状。	181.7	(92)	21.6	褐色シルト。埋土のしまりは弱い。最下部がやや粘質であるが、埋土の変化は少ない。	
32～35区	SD85	北部で検出。東西方向の溝で、断面は底面は凹凸で緩やかに立ち上がる台形状。SK86、SD87に切られる。	上端131 下端80	—	11	褐色混砂シルト、埋土の変化は少ない。主に32区で検出したSD85内底面から出土。土器1点、須恵器2点出土。	現代の用水路とほぼ同一位置。 ※遺構図17-14
34区	SK86	北西部で検出。平面は不明。土坑の中心が調査区外であり、確認できた断面は漏斗状。SD85に切られる。	(84)	52.5	24	埋土は他の遺構と比べ粘土質。	29区SD72、25区SD77と同一の溝と考えられる。
33区	SD87	中央部で検出。北西から南東方向の溝で、断面は椀状。SD85に切られる。	上端72 下端36	—	22	上部は黒褐色混砂シルト、下部は褐色中～粗砂。検出した部分は溝の最深部は砂で充填される。溝底部で打ち欠いた20cm程の礫が出土。	
	SP88	東端で検出。平面は円形。断面は浅い皿状。	19.6	—	24.7	単層。灰色細砂混りシルト。	
27区	SP89	東部で検出。平面は円形。	20.4	—	20.8	単層。灰色細砂混りシルト。	
31区	SD90	南部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は浅い皿状。	上端41 下端15	—	6	単層。黒褐色細砂混りシルト。	29区 SD72、25区 SD77、33区 SD87と類似。
42区	SK91	南西部で検出。土坑の中心は調査区外であるため、平面は不明。南西部がトレンチ外に広がる。断面形は台形状。	78	22	18	単層。灰黄褐色細砂混りシルト。	
	SP92	南西部で検出。平面は円形。	19	17.6	17.3	単層。灰色細砂混りシルト。	
38区	SD93	北部西側で検出。南北方向の溝で、断面は椀状。	上端35 下端19.6	—	6.2	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SD94	南部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は台形状。SD101を切る。	上端40 下端20	—	15.6	砂が多く混じり、炭化物を含む。SD101と類似。SD87と類似した状況で、溝底面で礫が出土。埋土中から土器2点出土。	※遺物図16-12
	SD95	南部で検出。北西から南東方向の溝で、断面は浅い皿状。	上端72 下端39.7	—	9.5	単層。黄灰色細砂混りシルト。明確な関係は確認できないが、埋土からSD94・101より新しいものと思われる。	
	SD96	中央部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は椀状。	上端62 下端39	—	20.4	単層。灰黄褐色極細砂混りシルト。埋土はやや暗色を呈すが、地山と類似。	
	SK97	中央部で検出。平面は楕円形。断面は皿状で、底面に凹凸があり不安定。	(132)	68.8	27.7	地山の礫を除去した状況はみられない。	
	SK98	南部で検出。一部を検出したのみで、平面・断面いずれも不明。	(27.5)	(33.3)	25.0	上層は灰色シルト、下層は暗灰黄色シルト～粘土。	
	SP99	南部で検出。平面は円形。	22	—	4	単層。灰色シルト。	
	SP100	中央部で検出。平面は円形、断面は方形。	28	—	18.5	黄灰色シルト、埋土の変化は少ない。埋土内中ほどでまとまって須恵器1点出土。	※遺物図17-15
	SD101	南部で検出。北西から南東方向の溝で、断面は皿状。SD94に切られる。	上端62.4 下端38.2	—	4.8	検出した溝上面で弥生土器2点出土。	SD72・77・87と同一のものと考えられる。※遺構図14、遺物図16-12
	SD102	北西端で検出。北から南方面の溝で、断面は台形状。	上端(129) 下端(97)	—	18	単層。灰色細砂混りシルト。埋土中から遺物出土。須恵器10点、青磁1点、陶器4点。	現代水路と平行する。SD1と同一か。
18区	SK103	北西端で検出。平面は円形で、断面は台形状。	104	—	33	褐色シルト、埋土の変化は少ない。しまり弱い。	近世以降の野井戸か。
	SP104	中央部で検出。平面は円形で、断面は椀状。	43	—	14	単層。灰色細砂混りシルトに地山ブロック混ざる。	
	SP105	北部で検出。平面は円形で、断面は椀状。SK322を切る。	31	—	13	単層。灰色中～粗砂混りシルト。	

表3: 小畑方遺跡第3次発掘調査検出遺構一覧(3)

調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項
			長軸(3D) (直径)	短軸(2D)	深さ (検出面 から)		
44区	SD107	南北トレンチ(以下同)南部で検出。東西方向の溝で、断面は血状。SD108を切り、SK109・SP113に切られる。	上端 51 下端 43	—	8	単層。黄灰色細～中砂混りシルト。平安時代の遺構と類似。埋土中から須恵器2点出土。	
	SD108	南部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は血状。SD107に切られる。	上端 37 下端 27	—	7	単層。褐色細～中砂混りシルト。	
	SK109	南部で検出。平面は円形で、断面はU字状。SD107を切る。	62	—	14	灰黄褐色シルト～粘土。埋土の変化少ない。	
	SP110	南部で検出。平面は楕円形で、断面は血状。	55	30	32	柱痕あり。黄灰色シルト。	隣にあたると思われるSP110・113が111・112に比べ0.1～0.2m程深く、規模が大きい。SB4を構成するビット。SP267・268・273・283が対となる。
	SP111	南部で検出。平面は楕円形で、断面は血状。	44	25	12	柱痕あり。灰黄褐色シルト。	
	SP112	南部で検出。平面は円形で、断面はやや方形。	26	—	18	柱痕あり。灰黄色細砂混りシルト。	
	SP113	南部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。SD107を切る。	42	29	38	柱痕あり。灰黄色細砂混りシルト。	
	SP114	東西トレンチ(以下同)西部で検出。平面は円形で、断面は台形状。	26	—	18	黄灰色シルト。埋土の変化少ない。	
	SP115	中央部で検出。平面は円形で、断面は血状。	22	—	12	単層。黄灰色細砂混りシルト、地山ブロック含む。	
	SP116	中央部で検出。平面は円形。	21	—	14	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP117	中央部で検出。平面は円形。	22	—	27	単層。黄灰色細砂混りシルト、炭化物含む。埋土中から土師器1点、須恵器1点出土。	
	SP118	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は楕状。	29	22	20	柱痕あり。黄灰色シルト。最下部に地山ブロック含む。	
	SP119	中央部で検出。平面は円形で、断面は方形。	35	—	25	柱痕あり。黄灰色シルト。土師器1点、須恵器1点出土。	
	SK120	中央部で検出。平面は不整形。断面も不整形で凹凸が多い。	165	86	18	黒褐色粘土。埋土の変化少ない。	自然の窪みの堆積。SB2を構成するビット。
	SP121	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	36	—	43	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から弥生土器2点出土。	
	SP122	中央部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	42	37	13	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕不明瞭。埋土中から土師器1点、須恵器1点。底面から瓦1点出土。瓦を破石としてもちいたが。	
	SP123	中央部で検出。平面は楕円形。断面はU字状で西側が窪む。SP124を切る。	30	24	23	柱痕あり。黄灰色細砂混りシルト。底面に柱あたりがのこる。埋土中から土師器1点、須恵器1点出土。	
	SP124	中央部で検出。平面は円形で、断面は方形。SP123に切られる。	(27)	—	13	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器1点出土。	
	SP125	中央部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	36	—	18	黄灰色シルト。埋土の変化少ない。下部に地山ブロック含む。段下げ時、土師器1点出土。	
	SP126	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	35	29	28	単層。黄灰色細～中砂混りシルト。上部が西方向へ傾く抜き取りか。側面で土師器6点出土。	※遺物図17-16
	SP127	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は漏斗状。	28	22	28	柱痕あり。黄灰色シルト。掘方に地山ブロック。底面に柱あたりがのこる。	SB1を構成するビット。
	SP128	中央部で検出。平面は円形。	23	—	9	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP129	中央部で検出。平面は円形で、断面はやや不整形なU字状。	40	33	44	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕不明瞭。根石あり。	SB2を構成するビット。
	SP130	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	30	—	30	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。段下げ時、須恵器1点出土。	SB1を構成するビット。
	SP131	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	31	—	28	柱痕不明瞭。根石あり。段下げ時、土師器9点、須恵器1点出土。	
	SP132	中央部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	23	—	16	上部に炭化物含む。上層に黄褐色シルト、下層に褐色シルト。段下げ時、土師器6点出土。	
	SP133	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は楕状。	43	31	34	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。	
	SP134	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は血状。	37	29	10	単層。黄灰色細～中砂混りシルト。	
	SP135	東部で検出。平面は円形。	19	—	26	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器1点出土。	
	SP136	東部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	39	32	35	柱痕あり。段下げ時、土師器6点、須恵器2点出土。	SB1を構成するビット。
	SP137	東部で検出。平面は円形で、断面は漏斗状。	34	28	43	柱痕あり。黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱あたりがのこる。	
	SP138	東部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	28	—	18	柱痕あり。黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。段下げ時、土師器1点出土。	
	SP139	東部で検出。平面は円形で、断面は漏斗状。	43	—	41	柱痕あり。黄灰色シルト。掘方に地山ブロック含む。柱あたりがのこる。埋土中から土師器4点出土。	SB2を構成するビット。
	SP140	東部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	49	40	46	褐色シルト。柱痕あり。側面に柱痕。埋土中から弥生土器1点、土師器6点出土。	SB1を構成するビット。
	SP141	東部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	29	—	27	上層は褐色混砂シルト、下層は灰色混砂シルト。器種不明須恵器1点、鉄鏝1点出土。	※遺構図14、遺物図17-17、18
	SP142	東部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	24	—	12	褐色混砂シルト。埋土の変化少ない。浅く下部のみ残存。根石あり。	
	SP143	東部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	29	—	30	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。	
	SP144	東部で検出。平面は円形。	22	—	13	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。	
	SP145	東部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	23	—	48	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。	
	SP146	東部で検出。平面は円形。	19	—	13	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP147	東部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	25	—	24	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。側面に柱痕。埋土中から土師器1点出土。	SB2を構成するビット。
	SP148	東部で検出。平面は円形で北側は調査区外へ広がる。断面はU字状。	(22)	—	24	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP149	中央部で検出。平面は楕円形。	17	—	11	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP150	南北トレンチ北部で検出。平面は円形で調査区外へ広がる。SK302を切る。	45	(28)	28	黄灰色シルト。根石あり。埋土中から弥生土器3点、土師器3点、粘土塊1点出土。	SB2を構成するビット。
	SK151	東西トレンチ東部(以下同)で検出。平面は円形で調査区外へ広がる。断面は台形状。SK302を切る。	131	(25)	20	炭化物を多量に含む。埋土内にまばらに弥生土器2点、土師器2点、土鏝1点出土。	※遺構図15、遺物図17-19、20
	SP152	東部で検出。平面は楕円形。	25	19	28	単層。暗灰黄色細砂混りシルト。	
	SP153	東部で検出。平面は楕円形。断面は底面からU字状に立ち上がり、上部は血状に開く。	25	—	28	黄灰色混砂シルト。埋土の変化少ない。柱痕あり。埋土中から弥生土器4点、土師器28点、須恵器7点、陶器1点出土。	SB1を構成するビット。
	SP154	東部で検出。平面は円形。	18	—	37	単層。暗灰黄色細砂混りシルト。	
	SP155	東部で検出。平面は楕円形。	23	18	42	単層。暗灰黄色細砂混りシルト。	
	SP156	南北トレンチ(以下同)北部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	26	20	17	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から弥生土器4点、土師器2点、須恵器2点出土。	
	SP158	北部で検出。平面は円形。	18	—	18	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP159	北部で検出。平面はやや方形で、断面は緩やかに上方に開くU字状。	34	—	27	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器1点、須恵器1点出土。	
	SP160	北部で検出。平面は円形。	17	—	15	単層。暗灰黄色細砂混りシルト。埋土中から須恵器1点出土。	
	SP161	北部で検出。平面は楕円形で、断面は緩やかに上方に開くU字状。	28	23	31	柱穴。掘方不明瞭。埋土中から弥生土器2点、土師器16点、須恵器3点出土。	
	SP162	北部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	21	—	14	単層。埋土中から土師器2点出土。	
	SP163	北部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	25	—	19	黄灰色シルト。最下部に粘土堆積。段下げ時、土師器8点、須恵器4点出土。	※遺物図17-21、22
	SP164	北部で検出。平面は円形。	16	—	23	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP165	北部で検出。平面はやや方形で、断面は浅い楕状。	39	36	16	柱痕あり。側面に柱痕。埋土中から弥生土器3点出土。	
	SP166	北部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	27	—	30	柱痕あり。側面に柱痕。段下げ時、土師器3点、須恵器1点出土。	
	SP167	北部で検出。平面は楕円形で、断面は上方に広がるU字状。	53	36	34	柱痕あり。黄灰色シルト。段下げ時、土師器11点、須恵器1点出土。	
	SP168	北部で検出。平面は楕円形で、断面は楕状。	36	30	23	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。最上部で土師器9点出土。	SB1を構成するビット。※遺構図12、遺物図16-23
	SP169	北部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	21	—	18	黄灰色シルト。埋土の変化少ない。下部に地山ブロック含む。段下げ時、土師器1点出土。	
	SP170	北部で検出。平面は円形で、断面は緩やかに上方に開くU字状。	13	—	24	柱痕あり。黄灰色シルト。最下部から土鏝。その他は埋土中から弥生土器2点、土師器2点、須恵器4点、土鏝1点出土。	SB2を構成するビット。※遺構図13、遺物図17-24、25
	SP171	北部で検出。平面は円形。	18	—	23	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器11点、須恵器1点出土。	
	SP172	北部で検出。平面は楕円形。	27	20	10	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP173	北部で検出。平面は円形。	15	—	9	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP174	北部で検出。平面は円形。	16	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器2点、須恵器1点出土。	
	SP175	北部で検出。平面は円形。	23	—	27	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。	
	SP176	北部で検出。平面は円形。	18	—	14	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP177	北部で検出。平面は円形。	20	—	14	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP178	北部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	21	—	19	柱痕あり。下部に炭化物少量含む。	
	SP179	北部で検出。平面は円形。	19	—	10	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP180	北部で検出。平面は円形。	26	—	25	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器2点出土。	
	SK181	北部で検出。平面は円形で、断面は楕状。SP299・307・SX403を切る。	219	188	68	しまり弱い。埋土中から土師器2点、須恵器2点出土。	SK269と類似。近世以降の野井戸か。

表4:小縄方遺跡第3次発掘調査検出遺構一覽(4)

調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項
			長軸(辺)(直径)	短軸(辺)	深さ(検出面から)		
44区	SP183	北部で検出。平面は円形。	23	—	14	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP184	北部で検出。平面は円形。	13	—	10	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP185	北部で検出。平面は円形。	26	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。	
	SP186	北部で検出。平面は円形。	22	—	18	単層。暗灰色細砂混りシルト。	
	SP187	北部で検出。平面は方形で、東側は調査区外へ広がる。断面は底面からU字状に立ち上がり、東側上部が皿状に開く。SP308に切られる。	(38)	33	25	柱痕あり。側面に柱痕。	
	SP188	北部で検出。平面は円形。	20	—	26	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP189	中央部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	37	30	47	柱痕あり。	
	SP190	北部で検出。平面は円形で、断面は上方に広がるU字状。SP290を切る。	36	—	20	埋土中から須恵器1点出土。	
	SP191	北部で検出。平面は円形で、断面は漏斗状。	36	—	44	柱痕あり。黄灰色シルト。柱あたりがのこる。根石あり。	SB3を構成するピット。
	SP192	北部で検出。平面は円形。	13	—	30	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP193	北部で検出。平面は円形。	27	—	52	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP194	北部で検出。平面は楕円形で、断面は方形。	40	29	38	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器4点、白磁1点出土。	SB3を構成するピット。※遺構図13、遺物図17-26
	SP195	北部で検出。平面は円形で、断面は方形。	29	—	24	柱痕あり。	
	SP196	北部で検出。平面は円形で、断面はやや方形。	26	—	20	柱痕あり。	
	SP197	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	23	—	24	黄灰色シルト、埋土の変化少ない。埋土中から弥生土器5点、須恵器1点出土。	
	SP199	中央部で検出。平面は円形で、断面はほぼ方形。	22	—	22	黄灰色シルト、埋土の変化少ない。須恵器1点出土。壺の上部に蓋をするように角張りがつけられていた。	※遺構図14、遺物図17-27
	SP200	北部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	23	—	17	柱痕あり。埋土中から土師器3点出土。	
	SP201	東トレンチ東部で検出。平面は円形で、断面は楕円状。	17	—	9	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。	
	SP202	南トレンチ(以下同)中央部で検出。平面は円形で、断面は方形。	35	30	27	柱痕あり。埋土中から弥生土器1点出土。	
	SP203	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	24	—	26	柱穴不明瞭。上部に炭化物含む。埋土中から須恵器1点出土。	
	SP205	中央部で検出。平面は円形。	17	—	14	単層。黄灰色シルト。	
	SP206	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は台形。	48	29	22	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器2点出土。	SB3を構成するピット。
	SP207	中央部で検出。平面は方形で、断面はU字状。	31	26	38	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器1点出土。下部に地山ブロック含む。	※遺物図17-28
	SP208	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	26	—	27	褐色シルト。柱痕あり。埋土中から須恵器1点出土。	
	SP209	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	23	—	25	柱痕あり。褐色シルト。	
	SP210	中央部で検出。平面は円形で、断面は楕円状。	21	—	18	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。	SB3を構成するピット。
	SP211	中央部で検出。平面は円形。	21	—	16	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP212	中央部で検出。平面は円形。	21	—	34	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP213	中央部で検出。平面は円形で、断面は台形。	21	—	22	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器1点出土。	
	SP214	中央部で検出。平面は円形で、断面は浅い方形。	26	—	11	柱痕あり。黄灰色シルト。	SB3を構成するピット。
	SP215	中央部で検出。平面は円形。	16	—	19	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP216	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	29	—	48	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器1点、須恵器2点出土。	SB3を構成するピット。
	SP217	中央部で検出。平面は円形。	11	—	11	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP218	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は方形。	39	31	21	黄灰色シルト。埋土中から弥生土器1点出土。	
	SP219	中央部で検出。平面は円形。	19	—	24	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP220	中央部で検出。平面は円形。	19	—	24	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP221	中央部で検出。平面は楕円形。	23	19	19	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP222	中央部で検出。平面は円形。	18	—	44	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP223	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は台形。	37	31	25	柱痕あり。黄灰色シルト。	SB3を構成するピット。
	SP224	中央部で検出。平面は円形。	24	—	29	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器2点出土。	
	SP225	中央部で検出。平面は円形。SP226を切る。	21	—	33	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器1点出土。	
	SP226	中央部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	(27)	22	29	単層。暗灰色細砂混りシルト。	
	SP227	中央部で検出。平面は円形。	19	—	30	単層。暗灰色細砂混りシルト。	
	SP228	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	30	23	32	柱痕あり。黄灰色シルト。	SB3を構成するピット。
SP229	中央部で検出。平面は円形。	24	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器2点出土。		
SP230	中央部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	30	21	30	褐色シルト。掘方不明瞭。埋土中から土師器1点出土。	SB3を構成するピット。	
SP232	中央部で検出。平面は円形。	17	—	26	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP233	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	20	—	31	柱痕あり。側面に柱痕。埋土中から土師器1点出土。		
SP234	中央部で検出。平面は円形で、断面はやや方形。底面凹凸。	22	—	18	単層。黄灰色中～細砂混りシルト。		
SP235	中央部で検出。平面は円形で、断面は漏斗状。	17	—	28	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP236	中央部で検出。平面は円形。	11	—	16	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP237	中央部で検出。平面・断面ともに方形。SP238を切る。	34	27	17	単層。灰白色シルト。	SB3を構成するピット。	
SP238	中央部で検出。平面は楕円形で、断面はU字状。	25	(12)	26	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP239	中央部で検出。平面は円形。	22	—	20	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP240	中央部で検出。平面は円形で、断面はほぼ方形。	26	—	18	柱痕不明瞭。		
SP241	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	20	—	25	柱痕不明瞭。上部に炭化物含む。		
SP242	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	24	—	29	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から弥生土器1点出土。	SB3を構成するピット。	
SP243	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は方形。	28	22	19	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。下部に炭化物多く含む。		
SP244	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	33	—	30	柱痕あり。黄灰色シルト。埋土中から土師器2点出土。		
SP245	中央部で検出。平面は円形で、断面は方形。	26	—	19	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。埋土中から須恵器1点出土。		
SK246	中央部で検出。平面は長方形で、底面が平坦な断面台形状。底面SP309を検出。	174	135	32	上層から土師器3点、須恵器1点出土。	埋土から近世以降か	
SP247	中央部で検出。平面は円形。	23	—	50	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。		
SP248	中央部で検出。平面は円形で、断面は方形。	34	—	34	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。根石あり。下部に地山ブロック含む。		
SP249	中央部で検出。平面は円形。	19	—	58	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP250	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は皿状。	54	47	13	単層。褐色色相～中砂混りシルト。埋土中から弥生土器13点、土師器28点出土。		
SP251	中央部で検出。平面は円形で、断面は漏斗状。	28	—	35	柱痕あり。上層の掘方広い。黄灰色シルト。埋土中から土師器1点、須恵器2点出土。		
SP252	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	22	—	43	黄灰色シルト、埋土の変化少ない。柱穴、掘方不明瞭。	※遺物図17-29	
SP253	中央部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	23	—	32	黄灰色シルト、埋土の変化少ない。柱穴、掘方不明瞭。		
SP254	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は台形状。	59	40	18	上層は黄灰色シルト、下層は灰黄褐色シルト～粘土。埋土中から土師器1点出土。		
SP255	中央部で検出。平面は楕円形で、断面は漏斗状。	30	24	37	柱痕あり。上層の掘方が明瞭。埋土中から土師器1点出土。		
SP256	中央部で検出。平面は円形。	19	—	40	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP257	中央部で検出。平面は円形。	20	—	30	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から須恵器1点出土。		
SP258	中央部で検出。平面は円形。	23	—	34	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP259	南部で検出。平面は円形。	17	—	16	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SD260	中央部で検出。東西方向の溝で、断面は浅い楕円状。	上端23 下端6	—	6	単層。黄灰色極細砂混りシルト。埋土中から土師器2点出土。	この溝より北に東西方向の柱穴列がみられ、この柱穴列に伴う溝と考えられる。周囲のピットは土杭と思われるものもあるが明確な配列は確認できなかった。	
SP261	中央部で検出。平面は円形。	26	—	36	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点出土。		
SP262	南部で検出。平面は円形。	22	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器2点出土。		
SP263	南部で検出。平面は円形。	24	—	33	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP266	南部で検出。平面は円形。	25	—	25	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器1点、須恵器1点出土。		
SP267	南部で検出。平面は円形で、断面はU字状。	39	28	21	柱痕あり。黄灰色シルト。	SB4を構成するピット。	
SP268	南部で検出。平面は円形で、断面は台形。	37	—	27	柱痕あり。黒褐色シルト～粘土。側面に柱痕。		
SK269	南部で検出。平面は円形で、断面は楕円状。SD271・SK272を切る。	190	160	58	しまり弱い。埋土中層内から須恵器1点、石臼2点出土。	SK181と類似。近世以降の野井戸か。	
SD270	南部で検出。北東から南西方向の溝で、断面は皿状。SD271・272を切る。329・SP278に切られる。	53	31	11	灰黄色シルト、埋土の変化少ない。隙を多く含む。埋土からは近世以降か。底面から土師器1点、須恵器2点出土。	水路除去部分で延長部を検出。	
SD271	南部で検出。東西方向の溝で、断面は皿状。SK269・SD270に切られる。	84	57	18	灰色シルト、埋土の変化は少ない。隙を多く含む。埋土からは近世以降か。底面から土師器1点、須恵器2点出土。		
SK272	南部で検出。平面は不整な楕円形で、断面は楕円状。SD270に切られる。	241	88	42	暗茶褐色シルトでしまりが強く、SX400地で検出した土坑に類似。		

表5: 小幡方遺跡第3次発掘調査検出遺構一覧(5)

調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項
			長軸(3D) (直径)	短軸(2D)	深さ (検出面 から)		
44区	SP273	南部で検出。平面は円形で、断面はやや方形。	31	—	21	柱痕あり。褐色シルト。	SB4を構成するピット。
	SK277	中央部で検出。平面は長方形で、断面が平坦な台形状。	178	85	18	灰黄色シルトが主体。上層から須恵器3点出土。	墓塚の可能性を考慮調査 埋土から近世以降か
	SP278	南で検出。平面は円形。SD270を切る。	27	—	29	単層。暗灰色細砂混りシルト。	
	SP279	中央で検出。平面は円形で、断面は方形。	27	—	26	上部に炭化物・地山ブロック含む。	
	SP280	中央部で検出。平面は楕円形で、断面はやや方形。SP293を切る。	(51)	38	30	柱痕あり。黄灰色シルト。側面に柱痕。埋土中から須恵器2点出土。	
	SP282	南部で検出。平面は円形。	202	—	46	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP283	南部で検出。平面は円形で、断面は楕状。	31	—	15	柱痕あり。褐色シルト。	SB4を構成するピット。
	SP284	東西トレンチ(以下同)東部で検出。平面は円形。	21	—	19	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP285	東部で検出。平面は円形。	27	—	21	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP286	東部で検出。平面は方形。	31	23	24	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP288	東部で検出。平面は円形。	23	—	17	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP289	東部で検出。平面は楕円形。	22	—	14	単層。黄灰色細砂混りシルト。下層内から弥生土器1点、土錘1点出土。	SB1を構成するピット。※遺構 図12。遺物図17-30
	SP290	南北トレンチ(以下同)北部で検出。平面は楕円形で、断面は楕状。 SP190に切られる。	27	(20)	23	黄灰色シルト、埋土の変化少ない。	
	SP291	中央部で検出。平面は円形。	171.6	—	18	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器2点出土。	
	SP292	東西トレンチ東部で検出。平面は円形。東側は調査区外へ広がる。断面は 上方に広がるU字状。	22	—	30	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP293	南北トレンチ中央部で検出。平面は楕円形で、断面は血状。SP280に切ら れる。	23	17	26	単層。褐色色シルト～中砂混りシルト。地山ブロック多く含む。	
	SP295	東西トレンチ(以下同)東部で検出。平面は円形。	27	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP296	東部で検出。平面は円形。	18	—	13	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP297	東部で検出。平面は円形。	24	—	36	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP298	東部で検出。平面は楕円形。	44	39	61	単層。黄灰色細砂混りシルト。	SB2を構成するピット。
	SP299	南北トレンチ中央部で検出。平面は円形。SK181に切られる。	(29)	—	22	単層。黄灰色細砂混りシルト。	SB3を構成するピット。
	SP300	東西トレンチ(以下同)東部で検出。平面は円形で調査区外へ広がる。	(26)	—	28	単層。黄灰色細砂混りシルト。	SB1を構成するピット。
	SP301	東部で検出。平面は円形。	19	—	17	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SK302	南北トレンチ北部で検出。平面は円形で、北側は調査区外へ広がる。断面 は側面がやや内側に膨らむ。SP150・SK151に切られる。	139	(88)	96	炭化物を多く含む。中層で20cm大の扁平な河原石と弥生土器25点、土 師器13点、須恵器1点が集中して出土。	※遺構図15。遺物図17-31、 32
	SP304	東西トレンチ東部で検出。平面は円形。	20	—	9	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP305	南北トレンチ(以下同)中央部で検出。平面は円形。SP306に切られる。	14	—	12	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP306	中央部で検出。平面は楕円形。SP305を切る。	41	29	24	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP307	北部で検出。平面は円形。SK181に切られる。	15	—	28	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP308	北部で検出。平面は方形。SP181に切られる。	33	—	41	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP309	中央部。SK246底面で検出。平面は円形。	21	—	21	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP310	北部で検出。平面は円形で調査区外へ広がる。断面は方形。	(27)	—	16	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から土師器11点出土。	
	SP313	東西トレンチ東部で検出。平面は円形で、北側は調査区外へ広がる。	(26)	—	27	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP314	南北トレンチ(以下同)北部で検出。平面は楕円形。	19	—	13	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
SP315	北部で検出。平面は円形。	15	—	10	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP316	中央部で検出。平面は円形。	19	—	20	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP317	中央部で検出。平面は楕円形。	18	—	19	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
SP319	中央部で検出。平面は円形。	14	—	15	単層。黄灰色細砂混りシルト。		
1区	SD320	東部用水路除去部で検出。南北方向の溝で、断面は楕状。	104	35	26	単層。灰色中～細砂混りシルト。礫を多く含む。	旧水路 近世以降か。
	SD321	北部用水路除去部で検出。東西方向の溝で、断面は楕状。	(81)	(38)	68	単層。灰色中～細砂混りシルト。礫を多く含む。	旧水路 近世以降か。
18区	SK322	北西隅で検出。平面は円形で調査区外へ広がる。断面は方形。SP105に 切られる。	(153)	(95)	25	単層。灰黄褐色中砂混りシルト。礫を多く含む。	
	SP327	南北トレンチ(以下同)南部、用水路除去部分で検出。平面は円形で、底 面が平坦な断面台形。	(57)	—	10	単層。褐色色細砂混りシルト。	
44区	SK328	南部、用水路除去部分で検出。平面は楕円形で、底面が平坦な断面台形。	126	71	12	単層。灰色中～細砂混りシルト。	
	SD329	南部、用水路除去部分で検出。東西方向の溝で、断面は浅い血状。 SD270を切る。	66	42	8	単層。灰色中～細砂混りシルト。底面で溝に沿うように礫が出土。埋土 中から土師器2点、須恵器2点出土。	SK329と同方向であるが、礫 の出土、深さが異なる。
	SP330	北部で検出。平面は円形で、東側は調査区外へ広がる。断面はU字状。	18	—	30	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器2点、須恵器2点出 土。	
	SP331	南部で検出。平面は円形。	32	19	17	単層。黄灰色細砂混りシルト。埋土中から弥生土器3点出土。	
	SP332	南部で検出。平面は円形。	33	—	23	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
	SP333	南部で検出。平面は円形。	25	—	17	単層。黄灰色細砂混りシルト。	
SP334	中央部で検出。平面は不整形で、断面は台形。	40	—	29	SX400他の土坑埋土と類似。		
掘立柱建物 について	掘立柱建物については当初、等間隔の柱間を意図しSB2、4の記録を行ったが、ピットの配列を再検討し、SB1、3を確認した。SB1、2、3が当該期の建物と考える。調査区の制約から全容が判明するものは少 ない。						
調査区	遺構名	調査区における位置・規模	南北 (m)	東西 (m)	主軸	柱間寸法・面積	特記事項
44区	SB1	南北トレンチ(以下同)北部で検出。2間×3間以上の総柱建物。	(2.2)	6.7	N12°E	梁行SP153-SP168で2.2mを測り、桁行SP153-130で東から2.1m、 2.3m、2.3mを測る。床面積は14.7㎡以上。	SP127・130・136・140・ 153・168・289・300 ※遺構 図12
	SB2	北部で検出。1間×4間以上の建物。	3.3	10.1	N14°E	梁行SP150-SP170は3.3mを測り、桁行SP150-SP121で東から 3.1m、2.2m、2.6m、2.2mを測る。床面積は33.3㎡以上。	SP121・129・139・147・150・ 170・298 ※遺構図13
	SB3	中央部で検出。2間×3間以上の総柱建物。	6.0	4.6	N23°E	梁行SP230-SP242で東から2.1m、2.5mを測り、桁行SP191- SP230で南から1.6m、2.0m、2.4mを測る。床面積は27.6㎡以上。	SP191・194・206・210・ 214・216・223・228・230・ 237・242・299 ※遺構図13
	SB4	南部で検出。3間×1間以上の建物。	3.9	3.8	N31°E	梁行SP267-SP113で3.9mを測り、桁行SP110-113で東から1.3m、 1.3m、1.2mを測る。床面積は14.8㎡以上。	SP110・111・112・113・267・ 268・273・283 ※遺構図13
不明遺構 について	ピット群に切られる方形の遺構はSX400からとした。SXはやや不整形な方形を呈する。遺構の平面形は白色土坑の半分程度を黒色土坑が切り込むような状況となる。黒色土坑の断面形状は内側はほぼ垂 直に掘られ、外側は湾曲しながら緩やかに立ち上がる。2基の土坑の切り合いは明確ではなく、一連の遺構の埋没過程の差と見られる。この様相はすべての不明遺構で共通している。						
調査区	遺構名	調査区における位置	遺構検出規模(cm)			埋土および遺物出土状況	特記事項
			長軸 (3D) (直径)	短軸(2D)	深さ (検出面 から)		
44区	SX400	東西トレンチ(以下同)東部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	320	306	56	遺構上面で弥生土器8点出土。	※遺構図15
	SX401	東部で検出。平面は楕円形で南北方向に広がる。断面は楕状。	396	156	66	しまり強い。黒褐色シルト～粘土。埋土の変化少ない。	
	SX402	南北トレンチ(以下同)北部で検出。平面は不整形な方形で、調査区外へ 広がる。断面は楕状。	(223)	193	22	基盤層に類似した礫混りシルト。	
	SX403	北部で検出。平面は不整形な方形で、断面は血状。	296	(184)	26	基盤層に類似した礫混りシルト。	
	SX404	北部で検出。平面は不整形な方形、断面は不整形な楕形。	259	110	51	しまり強い。黒褐色シルト。埋土の変化少ない。	
	SX405	中央部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	408	360	51	基盤層に類似した礫混りシルト。	
	SX406	中央部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	372	160	82	しまり強い。黒褐色シルト。埋土の変化少ない。	
	SX407	北部で検出。平面は不整形な楕円形で、断面は楕状。	298	264	24	基盤層に類似した礫混りシルト。	
	SX408	南部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	283	130	58	しまり強い。黒褐色シルト。埋土の変化少ない。	
	SX409	南部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	312	274	28	基盤層に類似した礫混りシルト。	
SX410	南部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	346	122	66	しまり強い。黒褐色シルト。埋土の変化少ない。		
SX411	北部で検出。平面は不整形な楕円形で、断面は楕状。	328	162	44	しまり強い。黒褐色シルト。埋土の変化少ない。	方形のプランは認められな かった。	
SX412	南部で検出。平面は不整形な方形、断面は楕状。	240	150	—	基盤層に類似した礫混りシルト。SK272を土坑とする他のSXと同 様の遺構の可能性もある。	水路部分の調査時に検出。	

※()内の数値は、遺構全体の規模ではなく、検出範囲内の数値である。
 ※計測の対象外とした項目は、—を表記している。
 ※遺構名3、36、41、42、48、50～53、106、157、182、198、231、264、265、274～276、281、287、294、311、312、318、323～326は欠番。

第3節 遺物

調査では弥生時代後期から鎌倉時代の遺物が出土した。調査区全体でコンテナ（L590mm×W386mm×H106mm）換算で14箱である。その中で、実測可能であった遺物33点を掲載した（図16、17）。1～8は弥生時代後期、9～13は古墳時代中期、14～33は平安時代以降の遺構から出土した遺物である。

弥生時代

1-1・2はSK2出土の壺である。両者は接合しないものの、器形や胎土等の特徴から同一個体の可能性が高い。1-1は胴部下半で、外面には主に縦方向のミガキを施す。1-2は底部で、底面には接合部と思われる痕跡がみえる。2はSK25出土の長頸壺で、肩部には右下がりの刺突文を施す。3～6はSK29から出土した。3は鉢で、器壁が粗く内外面とも調整は不明である。4は甕の底部である。器壁が剥落しており、調整は不明である。5は短頸壺で、口縁部外面に僅かにハケメが残る。内面は肩部以下に左上がりの粘土紐の接合痕が比較的明瞭にみえる。それより上部については外面調整に伴うオサエが顕著である。6は壺である。外面は器壁が粗いため、調整は不明である。内面には左上がり方向のケズリが微細に残る。7はSK45出土の広口壺で、大きく広がる口縁部端面に2条の擬凹線を施す。8はSD49出土の甕である。口縁部は僅かに外反する。外面に黒斑がある。

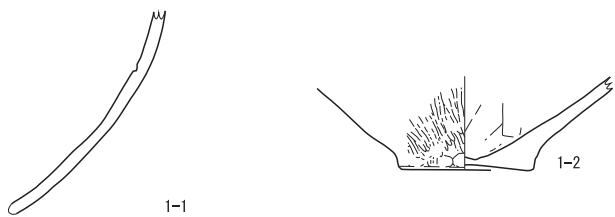
古墳時代

9～11はSD77上層から出土した。9・11は韓式系土器である。9は平底鉢で、外面には僅かに縄蓆文がみえる。11は甕もしくは鍋の胴部である。外面には縄蓆文が微細に残り、それに対応する内面には無文当て具によるものと思われる凹部が比較的顕著である。10は土師器の高杯である。12はSD101出土の韓式系土器の長胴甕である。肩部外面には正格子状のタタキがみえる。13は25区の韓式系土器の甕で、原位置から遊離した状態で出土した。把手は外面側から挿入されており、それに伴う痕跡が僅かに観察できる。器壁は粗いが、縄蓆文と思われる痕跡が微細に残る。あくまで肉眼観察にとどまるが、在地系土師器である10と外来系要素を有する9・11～13では胎土の色調や鉍物粒に相違点が看取できる。

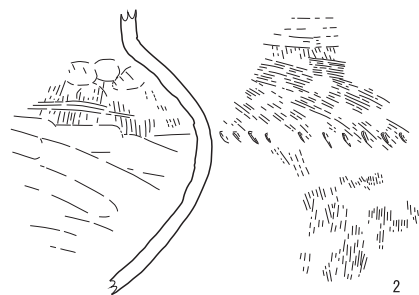
平安時代以降

14はSD85出土の須恵器瓶の底部である。高台は貼り付け輪高台で歪みが見られる。15はSP100出土の須恵器碗である。底部は回転糸切りで、口縁部に重ね焼きの痕跡が見受けられる。16はSP126出土の須恵器碗で、底部は回転糸切りである。17・18はともにSP141から出土した。17は底面から出土した須恵器の容器である。上方から見ると「日」の字状の形状をしている。外面は粗いケズリで成形し、底部はナデで成形している。内部はナデを施したのちに、細部をヘラケズリで調整している。同様の形態を持つ製品の出土事例としては、甲山経塚（姫路市飾磨区妻鹿）で出土した土製品や宝林寺北遺跡（たつの市）で出土した石製品がある（参考文献4、5）。18は上層で直立気味に出土した鉄鏃である。19・20はSK151から出土した。19は底部回転糸切りの土師器碗である。20は底部回転糸切りの土師器平高台碗である。21・22はSP163から出土した。21は土師器托皿である。底部は回転ケズリで、底部から上部に向けての穿孔が見られる。22は底部回転糸切りの須恵器碗である。23はSP168出土の土師器皿である。底部は回転ヘラ切りで、中央部がやや盛り上がる。24・25はSP170から出土した。24は須恵器碗である。口縁が玉縁状となり、内外面の所々に自然釉が付着する。25は土師器の管状土錘である。重量は5.5gを量る。26はSP194出土の白磁碗である。部分施釉で、高台は輪高台となる。27はSP199出土の須恵器壺である。口縁はL字状の受け口となり、底部は回転ヘラ削りの後にナデで仕上げている。28はSP207出土の土師器埴である。いわゆる播丹型で、口縁部は玉縁状で体部に平行タタキが残る。29はSP252出土の須恵器鉢である。30はSP289から出土した瓦質の管状土錘である。重量は3.7gを量る。31・32はSK302から出土した。31は底部ヘラ切りの土師器皿、32は土師器鉢で内・外面とも摩耗・剥離が激しい。33は44区出土の須恵器碗で、原位置から遊離した状態で出土した。底部は回転糸切りで、口縁に重ね焼きの痕跡が見受けられる。体部に1条の沈線が廻る。

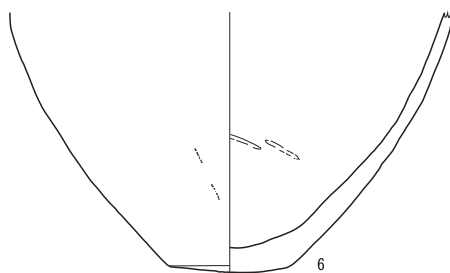
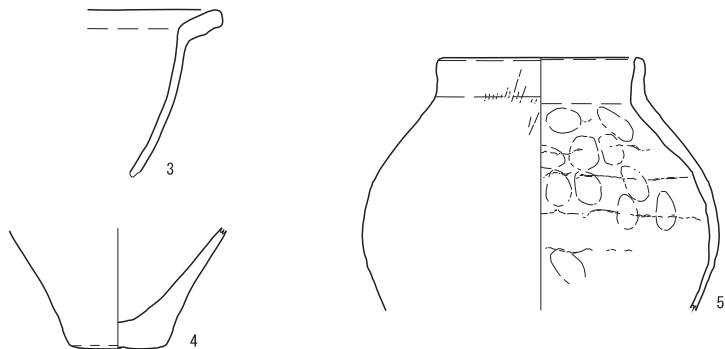
6区 SK2



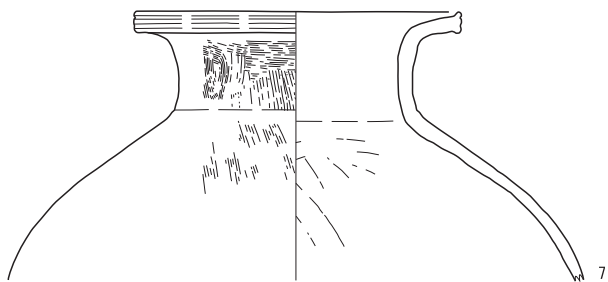
2区 SK25



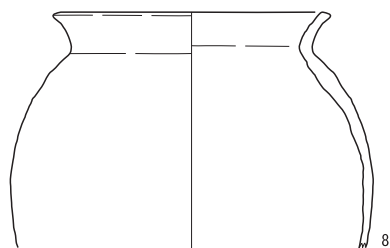
4区 SK29



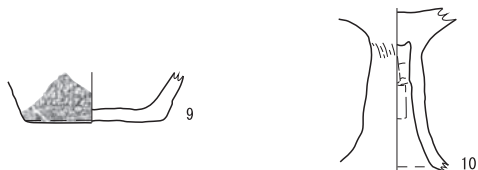
8区 SK45



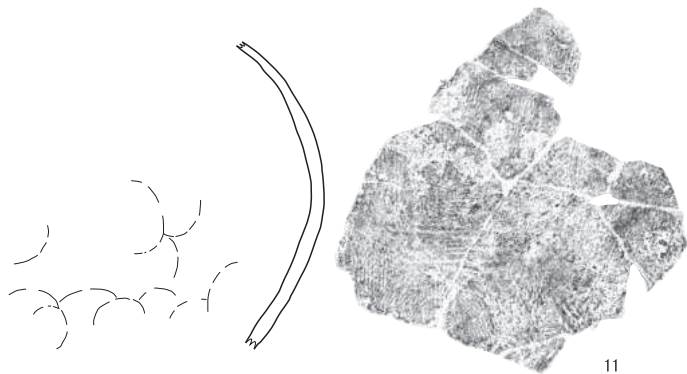
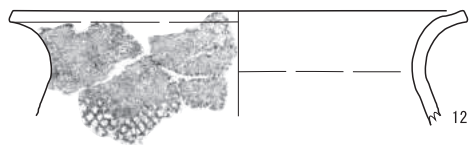
10区 SD49



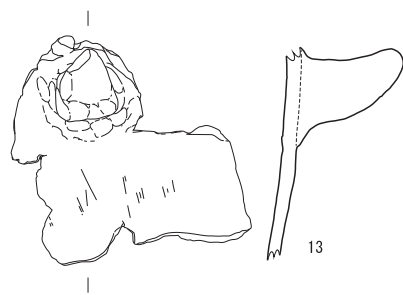
25区 SD77



38区 SD94・101 重複部



25区 機械掘削



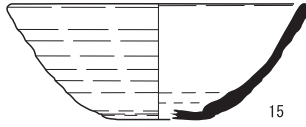
0 (1:4) 10cm

图16 3次調査遺物実測図

32区 SD85



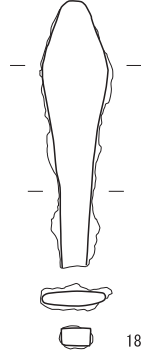
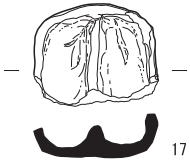
38区 SP100



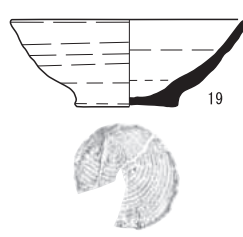
44区北側 SP126



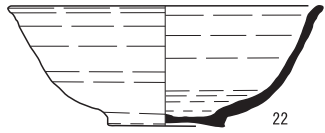
44区北側 SP141



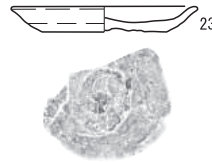
44区 SK151



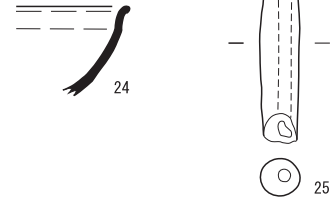
44区 SP163



44区 SP168

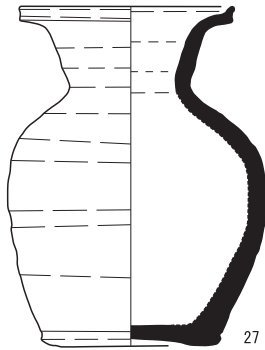


44区 SP170



25

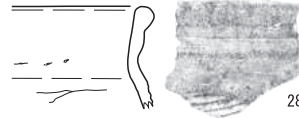
44区 SP199



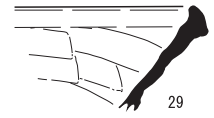
44区 SP194



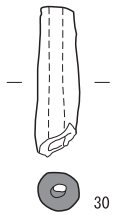
44区 SP207



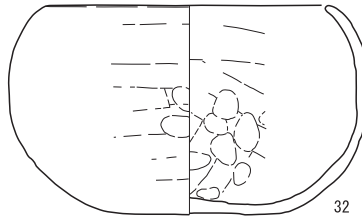
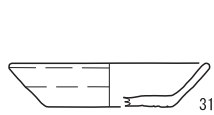
44区 SP252



44区 SP289



44区 SK302



44区



18・25・30以外
(1:4) 10cm

18・25・30
(1:2) 5cm

図17 3次調査遺物実測図

第IV章 総括

弥生時代

調査区南部で溝SD20、SD57、土坑SK2、SK25、SK29、SK45をまとめて確認した。いずれも弥生時代後期に位置づけられる。SD20、SD57の延長部は調査区の制約から明らかでないが、SD20は比較的大型の溝である。SD20以北では、当該時期の遺構は確認できず、溝以南において土坑が検出できることから、本遺構は区画溝の可能性はある。市川左岸の段丘上において、現在知られている弥生時代の遺跡は国分寺台地遺跡のみであったが、今回の調査により弥生時代の当該地域の集落域を考える上での比較資料を追加することができた。

古墳時代

第1次調査からつながる可能性のある溝（SD77～SD101）を検出した。SD77からは古墳時代中期の韓式系土器の甑や鉢が出土し、既存調査の成果を追認するものとなった。溝は段丘に沿うように北西から南東へと確認できる。溝の内側では第1次調査のSK02が検出され、溝以南では古墳時代の遺構が見つかっていないことから、この溝が区画遺構である可能性が高い。調査地周辺では、国分寺台地遺跡で韓式系土器・初期須恵器等の出土例があり、南方2kmには渡来系文物が豊富に出土した宮山古墳が所在する（参考文献6・7・8）。市川右岸では渡来系集団の集落跡が確認された市之郷遺跡の実態が明らかになりつつある（参考文献9）。今回の調査成果は、市川をはさむ渡来系集団の広がりを知るうえで重要な成果といえる。

平安時代以降

調査区北東部を中心に多数の柱穴および溝、土坑を確認した。平安時代後半から鎌倉時代にかけてほぼ同一地点で掘立柱建物等を建て替えながら、集落が営まれていたことが判明した。なお、今回の調査では4棟の掘立柱建物を検出したが、SB3を除き飾磨郡の条里地割と合わない。当該時期の集落跡は市内の豆田遺跡で実態の把握が進んでおり、条里地割内においては、基本的に建物跡は条里地割に沿って建てられるが、ずれるものも一定程度存在することが確認されている（参考文献10）。このズレは単純に時期差に起因するものではなく、小婦方遺跡における建物方位も条里地割内におけるズレなのか、地形に影響されたズレなのかは不明である。その要因については、今後、周辺の調査の進展を待って明らかにしていく必要がある。また、SP141からは妻鹿経塚出土品と類似する遺物が、SP199からは壺を埋納する出土状況が確認できた。直接的に祭祀の様相を示すものではないが、特徴的な事例といえる。

以上のように、今回の調査によって弥生時代から中世にかけての集落域に関する新たな知見を多数得ることができた。調査地周辺は平成20年（2008年）の小婦方遺跡発見まで遺跡の空白地帯であったが、壇場山古墳や宮山古墳と前後する時期の集落様相が判明したことは重要な成果といえる。一方、44区で検出した時期・性格不明遺構に関しては、今後の課題としたい。

〈参考文献〉

- 1 姫路市埋蔵文化財センター 2009 『春季企画展「発掘調査速報展2009」』
- 2 田中清美 2006 「初期須恵器生産の開始年代 一年輪年代から導き出された初期須恵器の実年代―
『韓式系土器研究』IX, 韓式系土器研究会
- 3 白石純・福井優・山田清朝2012 「姫路市市之郷遺跡出土韓式系土器の胎土分析」
『兵庫県立考古博物館研究紀要』第5号, 兵庫県立考古博物館
- 4 御旅山13号墳発掘調査団 1995 『御旅山13号墳』, 姫路市教育委員会
- 5 兵庫県教育委員会 2002 『兵庫県文化財調査報告第223冊 龍野市宝林寺北遺跡II』
- 6 姫路市教育委員会 1970 『宮山古墳発掘調査概報』
- 7 姫路市教育委員会 1972 『宮山古墳第2次発掘調査概報』
- 8 姫路市教育委員会 2016 『国指定重要文化財 宮山古墳出土品』
- 9 姫路市教育委員会 2021 『姫路市埋蔵文化財センター調査報告第105集 市之郷遺跡』
- 10 姫路市教育委員会 2020 『姫路市埋蔵文化財センター調査報告第87集 豆田遺跡・大浄口遺跡』



調査地より壇場山古墳を望む（西から）



調査区南部トレンチ全景（西から）



44区（西から）



44区（南から）

写真図版 3



1区南壁土層断面図（北から）



19区西壁土層断面（東から）



SD20土層断面（東から）



SD49土層断面（南から）



SD57土層断面（南東から）



SD77遺物出土状況（東から）



SD85土層断面（西から）



SD94・101検出状況（南東から）



SK25 (西から)



SK29 (北西から)



SK45土層断面 (南から)



SK151遺物出土状況 (南から)



SK302遺物出土状況 (南西から)



SP141遺物出土状況 (北西から)



SP141遺物出土状況 (南西から)



SP168遺物出土状況 (東から)



44区土坑群完掘状況（南西から）



SP199遺物出土状況（北から）



44区北側柱穴遺構群完掘状況（西から）



SX400土層断面（南西から）



SX400（南西から）



SD77 9



SD77 11



SD94·101 12



SP141 17



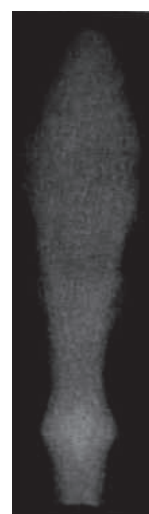
SP199 27



SK302 32



SP141 18



報告書抄録

ふりがな	こぶかたいせき							
書名	小婦方遺跡							
副書名	第3次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第118集							
編著者名	河本愛輝、中川猛							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1 TEL (079) 252-3950							
発行年月日	令和4年(2022年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
こぶかたいせき 小婦方遺跡	ひょうごけんひめじし 兵庫県姫路市 はなだちょうかのうほらだ 花田町加納原田 あごこぶかた 字小婦方	28201	020936	34° 50′ 01″	134° 43′ 37″	2020.6.25 ～ 2020.10.3	699m ²	店舗 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		遺跡調査番号	
小婦方遺跡	集落跡	弥生、古墳、 平安、鎌倉時代	溝、土坑、 掘立柱建物跡、柱穴		弥生土器・須恵器・ 土師器・磁器・瓦・鉄鏃		20200115	
要約	第1次調査では、古墳時代中期の韓式系土器がまとまって出土していたが、今回の調査では、それより時期のさかのぼる弥生時代後期の溝と土坑が見つかった。また、調査区の東部では平安時代後期から鎌倉時代の掘立柱建物跡等を検出し、弥生時代から中世にかけての集落域に関する新たな知見を多数得ることができた。							

姫路市埋蔵文化財センター調査報告第118集

小婦方遺跡

—第3次発掘調査報告書—

令和4年(2022年)3月31日発行

編集 姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079) 252-3950

発行 姫路市教育委員会
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

印刷・製本 株式会社 デイリー印刷
〒671-0218 兵庫県姫路市飾東町庄57-2